

平成19年度「商品先物取引に関する実態調査」報告書

2008年8月

農林水産省総合食料局商品取引監理官

経済産業省商務情報政策局商務課

= 目次 =

.調査の概要.....	1
.委託者調査の結果.....	5
-1.回答者の属性.....	6
-2.商品先物取引を始めた動機.....	9
-3.商品先物取引の経験.....	10
-4.商品先物取引の経験期間（累積）.....	12
-5.商品先物取引を行なった商品.....	13
-6.商品先物取引以外に取引経験のある金融商品.....	15
-7.現在の商品取引員と取引をしているきっかけ.....	16
-8.現在の商品取引員と取引をしている理由.....	17
-9.「商品先物取引・委託のガイド」のわかりやすさ.....	20
-10.商品先物取引を始めるにあたっての商品取引員からの説明.....	22
-11.商品先物取引を始めるにあたっての商品先物取引の仕組みの理解.....	24
-12.委託手数料について.....	27
-13.商品取引員に対する不満.....	29
-14.注文方法について.....	32
-15.商品先物取引の判断材料.....	37
-16.小規模取引商品について.....	39
-17.日本商品先物取引協会について.....	40
.商品取引員調査の結果.....	45
-1.取引口座数.....	46
-2.一般個人の損益状況.....	47
-3.登録外務員数.....	48

本報告書を読む際の注意事項

1. 報告書中の「n」は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するのを示す比率算出の基数となります。
2. 複数回答の質問においては、総回答数を回答者数（n）で割った比率を回答割合として示しているため、合計が100%を超える場合があります。
3. 結果数値（%）は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

.調査の概要

1.調査の目的

商品先物取引の受託業務の現状等を把握し、今後の商品先物取引に関する制度立案や運営を行う上での基礎資料として活用する。

2.調査項目

委託者アンケート調査

- ・ 回答者の属性（性別、年齢、職業、年収、投資割合）
- ・ 商品先物取引を始めた動機
- ・ 商品先物取引の経験（取引のある商品取引員数、経験期間、取引商品）
- ・ 商品先物取引以外に取引経験のある金融商品
- ・ 現在の商品取引員と取引をしているきっかけ及び理由
- ・ 商品先物取引を始めるにあたっての商品先物取引の仕組みの理解（「商品先物取引・委託のガイド」、商品取引員からの説明等）
- ・ 委託手数料について
- ・ 商品取引員に対する不満
- ・ 商品先物取引について（注文方法、判断材料、小規模取引商品について）
- ・ 日本商品先物取引協会について

商品取引員アンケート調査

- ・ 取引口座数
- ・ 一般個人の損益状況
- ・ 登録外務員数

3.調査対象

委託者アンケート調査

- ・ 調査対象数 5,277 人
- ・ 抽出方法 無作為抽出による標本調査

商品取引員アンケート調査

- ・ 調査対象数 73 社
- ・ 抽出方法 全数調査

4.調査時期

委託者アンケート調査

平成 20 年 1 月 30 日～平成 20 年 2 月 10 日

商品取引員アンケート調査

平成 20 年 1 月 21 日～平成 20 年 1 月 31 日

5.調査方法

アンケート調査票を用いた郵送調査

6.調査実施委託機関

株式会社リサーチワークス

7.回収結果

委託者アンケート調査

1,978 名（有効回答のみ。有効回答率 37.5%）

商品取引員アンケート調査

73 社（有効回答のみ。有効回答率 100.0%）

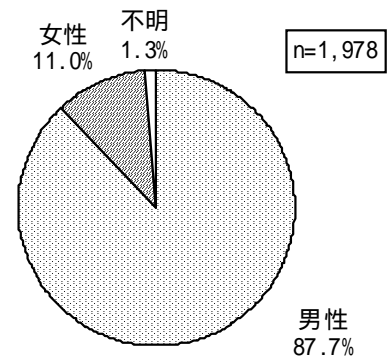
.委託者調査の結果

-1.回答者の属性

(1)性別

性別は、「男性」が 87.7%、「女性」が 11.0% となっている。(図表 1)

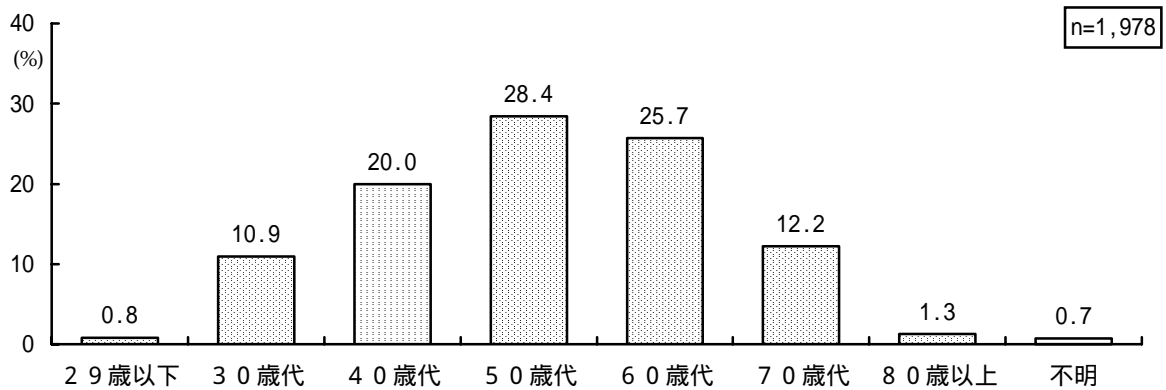
図表 1：性別



(2)年齢

年齢は、「50 歳代」が 28.4%と最も多く、次いで、「60 歳代」(25.7%)、「40 歳代」(20.0%)となっており、「40 歳～69 歳」で全体の約 3/4 を占めている。(図表 2)

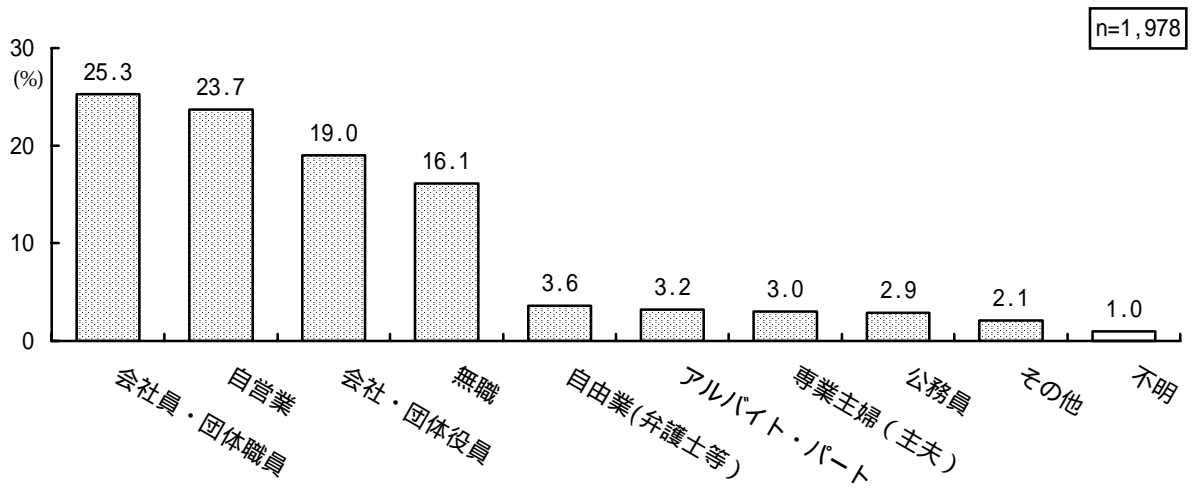
図表 2：年齢



(3)職業

職業は「会社員・団体職員」が 25.3%と最も多くなっている。これに、「会社・団体役員」(19.0%)、「公務員」(2.9%)を加えると約 5 割となり、給与所得者の割合が多くなっている。2 番目に多いのは「自営業」の 23.7%で、これに「自由業(弁護士等)」(3.6%)を加えると約 3 割になる。(図表 3)

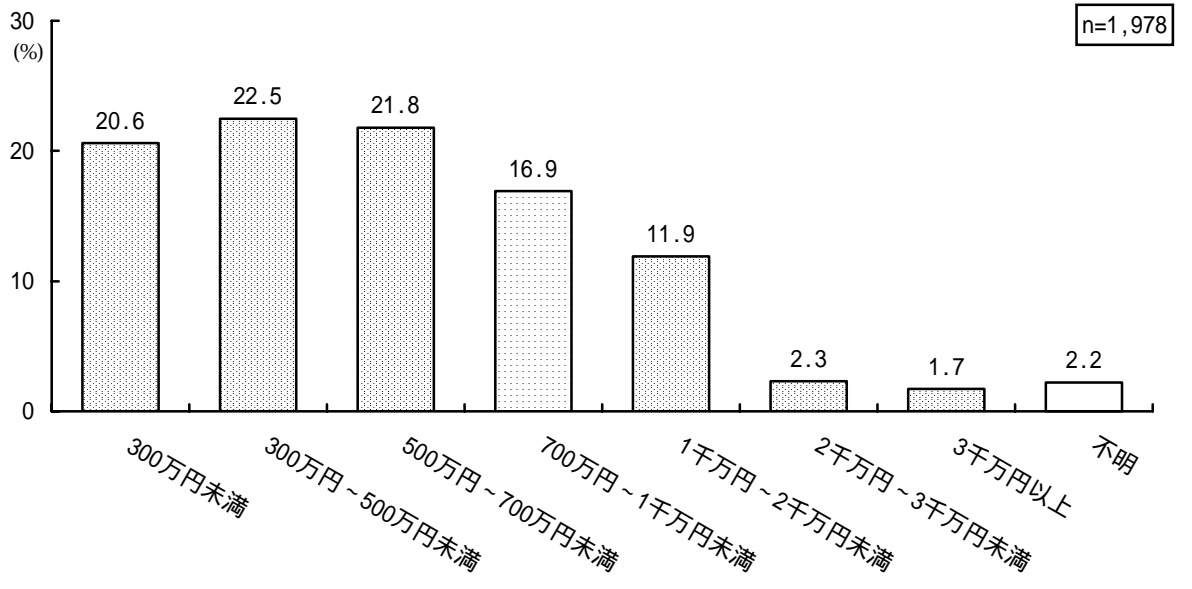
図表 3：職業



(4)年収

年収は「300万～500万円未満」が22.5%と最も多くなっている。次いで、「500万～700万円未満」(21.8%)が多く、「300万～700万円未満」で全体の約4割を占めている。これに、「300万円未満」(20.6%)を加えると、全体の約6割が「700万円未満」となっている。(図表4)

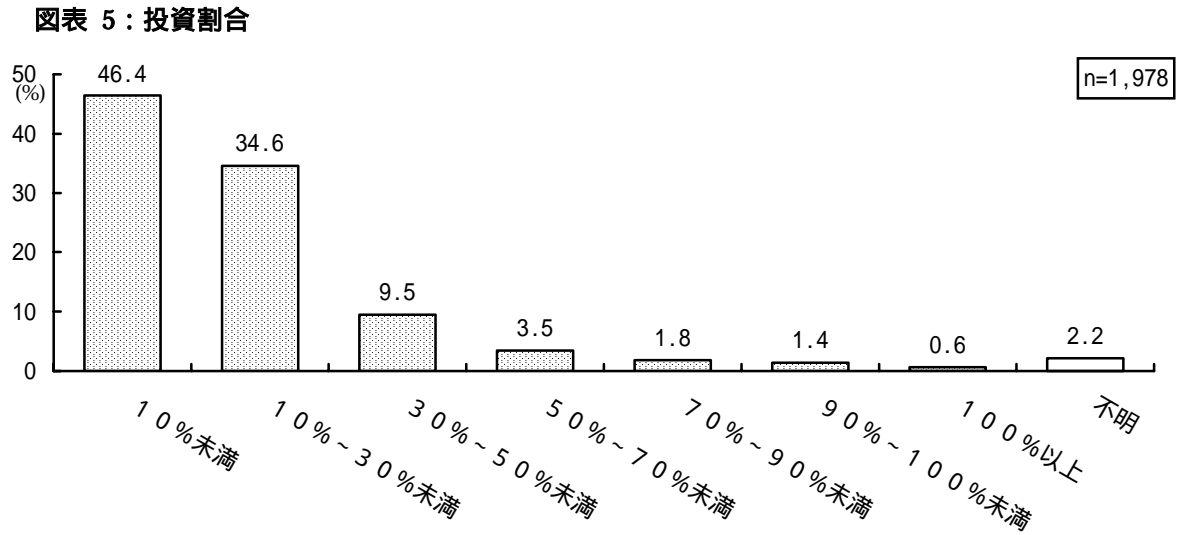
図表 4：年収



(5)投資割合

保有資産額に対する商品先物取引への投資割合は、「10%未満」が46.4%と最も多くなっている。次いで、「10%～30%未満」(34.6%)が多く、「30%未満」で全体の約8割を占めている。

(図表5)

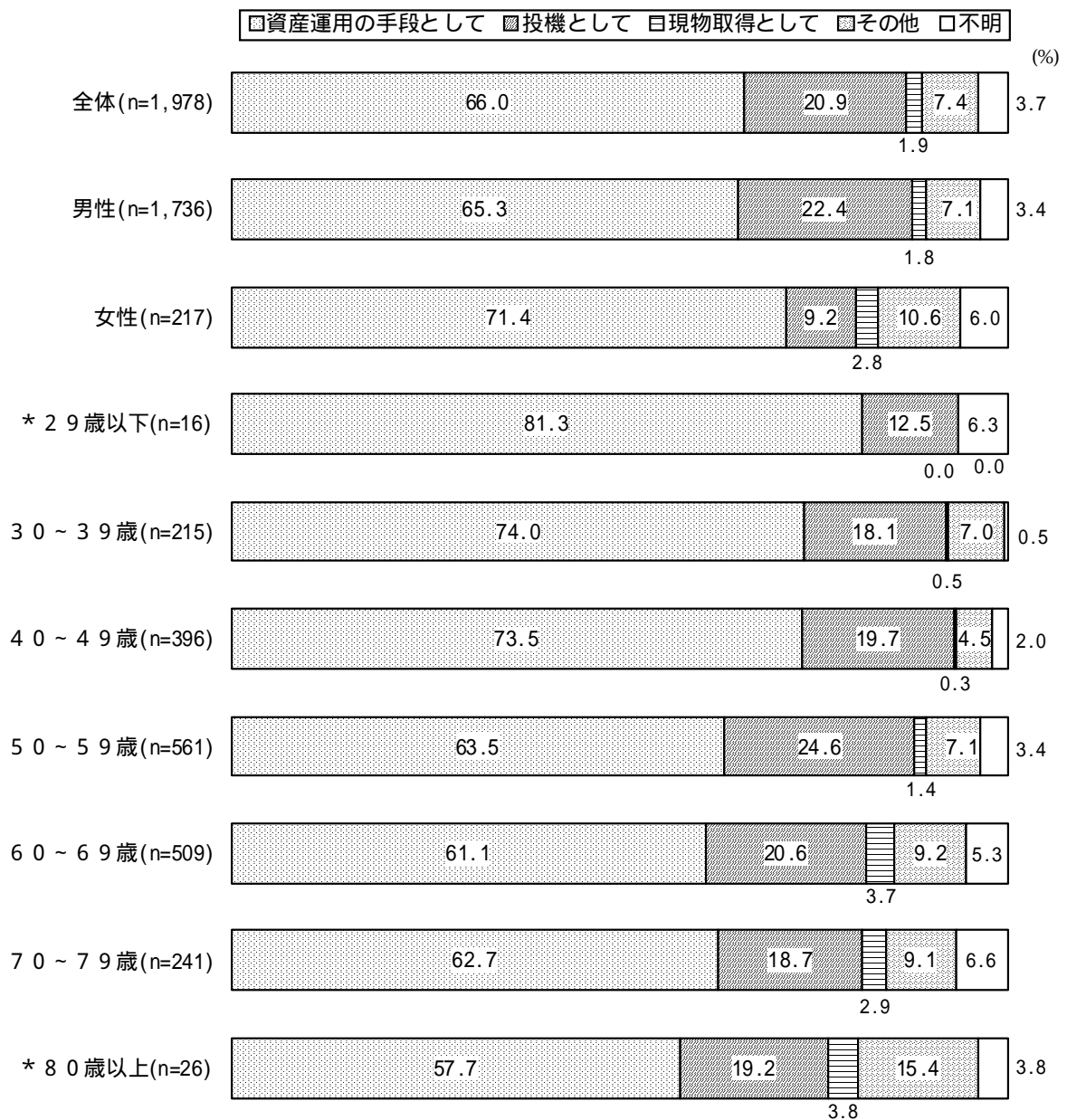


-2.商品先物取引を始めた動機

商品先物取引を始めた動機については、「資産運用の手段として」が66.0%、「投機として」が20.9%となっており、資産運用としての意識が強いことがわかる。また、「現物取得」は1.9%にとどまっている。

性別、年齢別にみても、いずれも「資産運用の手段として」が過半数となっている。(図表6)

図表6：商品先物取引を始めた動機（全体、性別、年齢別）



注) 図表中 * 印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

-3.商品先物取引の経験

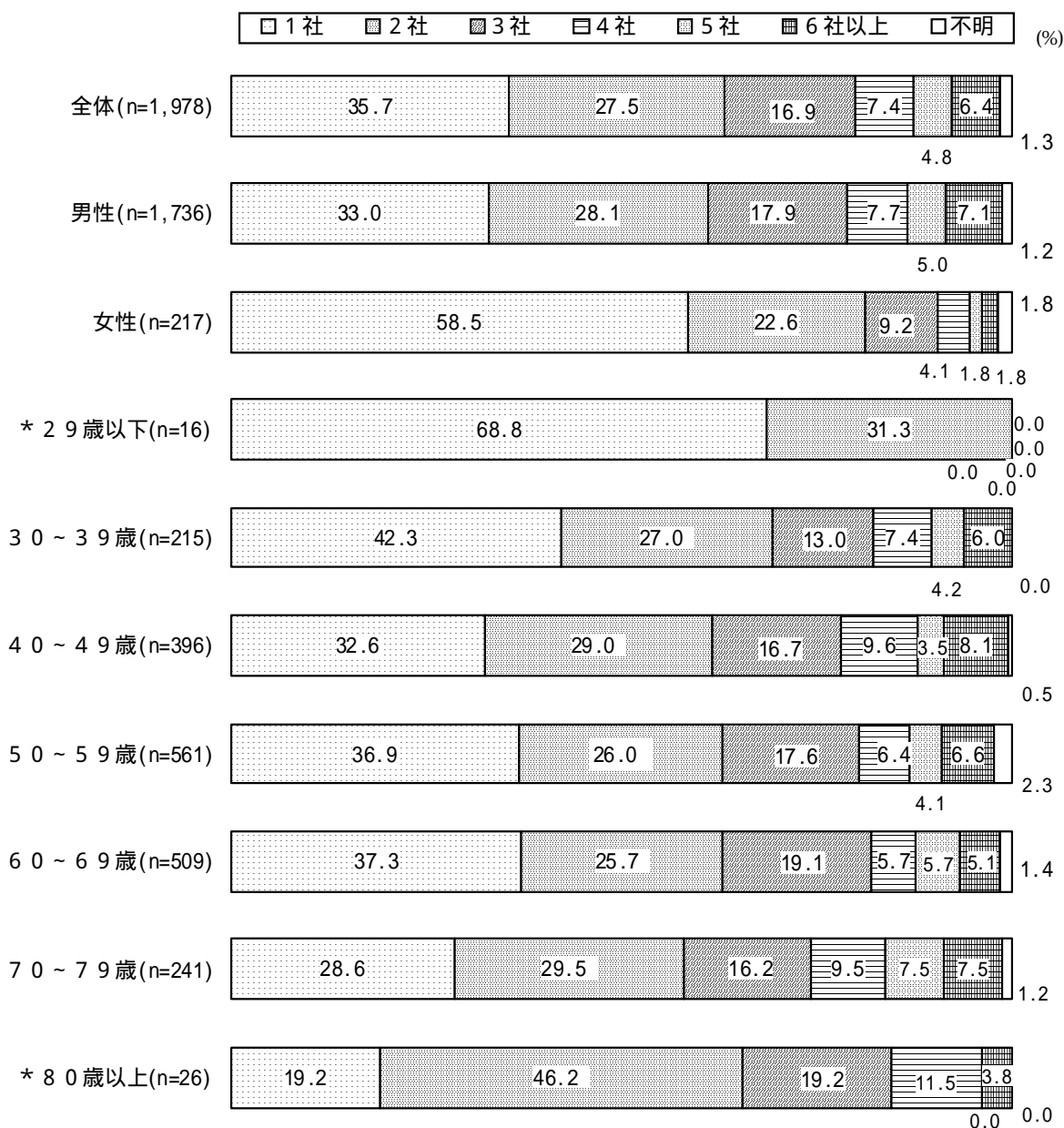
(1)これまでに取引した商品取引員数

これまでに取引した経験のある商品取引員数については、「1社」が35.7%、「2社」が27.5%となっており、約6割が「2社」以下となっている。

性別で見ると、「女性」で「1社」が58.5%と多くなっている。

年齢別で見ても、サンプル数の少ない「29歳以下」、「80歳以上」を除いて、大きな違いはみられない。(図表7)

図表7：これまでに取引した商品取引員数（全体、性別、年齢別）



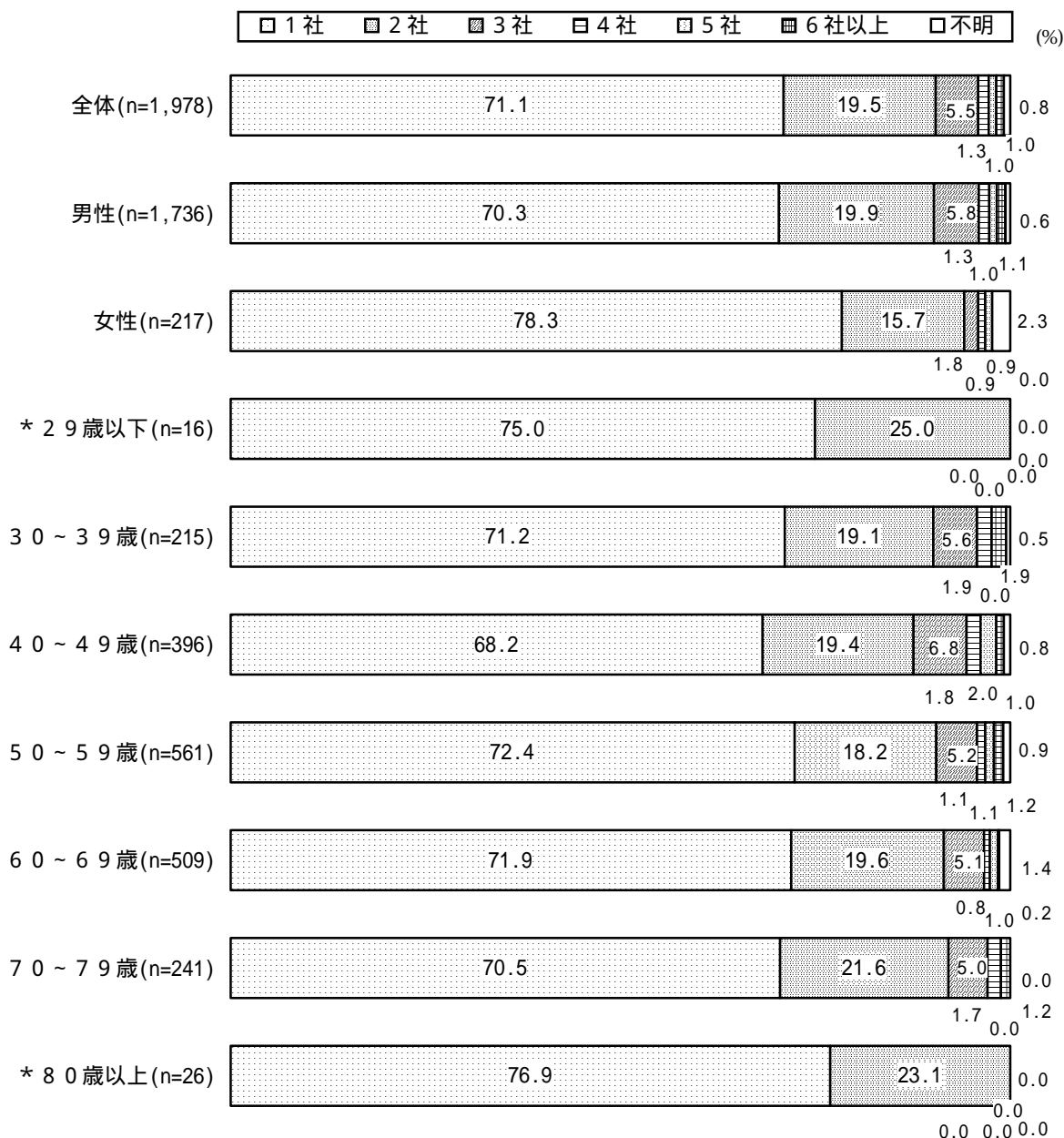
注)図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

(2)現在取引している商品取引員数

現在取引している商品取引員数については、「1社」が71.1%、「2社」が19.5%となっており、約9割が「2社」以下となっている。

性別、年齢別にみても、いずれも「1社」が多くなっており、大きな違いはみられない。(図表8)

図表8：現在取引している商品取引員数（全体、性別、年齢別）



注) 図表中 * 印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

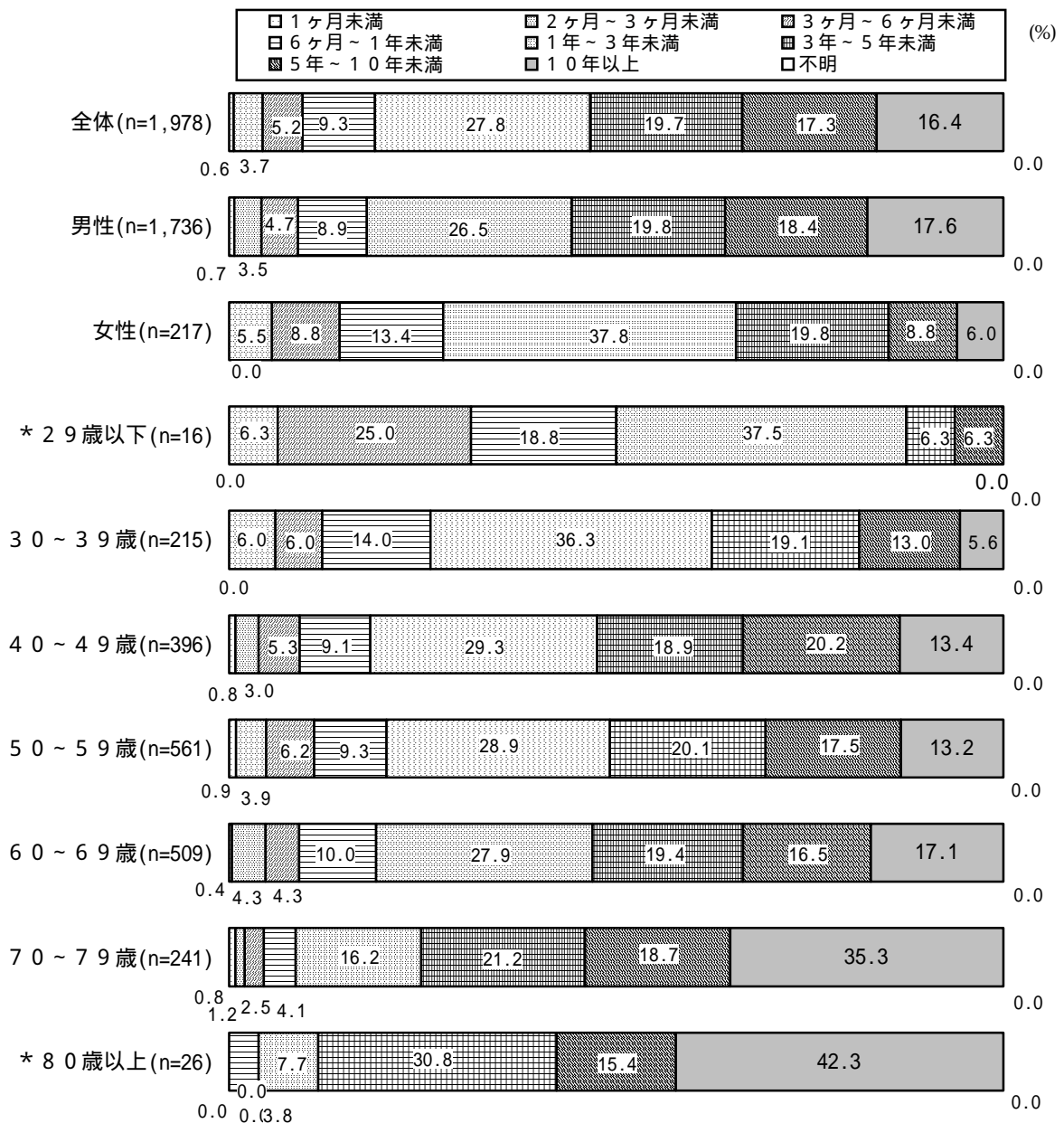
-4.商品先物取引の経験期間(累積)

商品先物取引の経験期間(累積)については、「1~3年未満」が27.8%と最も多くなっており、これに「1年未満」の18.8%を加えると、約5割が「3年未満」となっている。一方で、「3年以上」は53.4%となっており、このうち「10年以上」が16.4%を占めている。

性別でみると、「女性」で「1年未満」が27.7%とやや多くなっている。

年齢別でみると、「70~79歳」で「10年以上」が35.3%と多くなっており、年齢が高いほど経験期間が長くなる傾向がみられる。(図表9)

図表9：商品先物取引の経験期間(全体、性別、年齢別)



注)図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

-5.商品先物取引を行なった商品

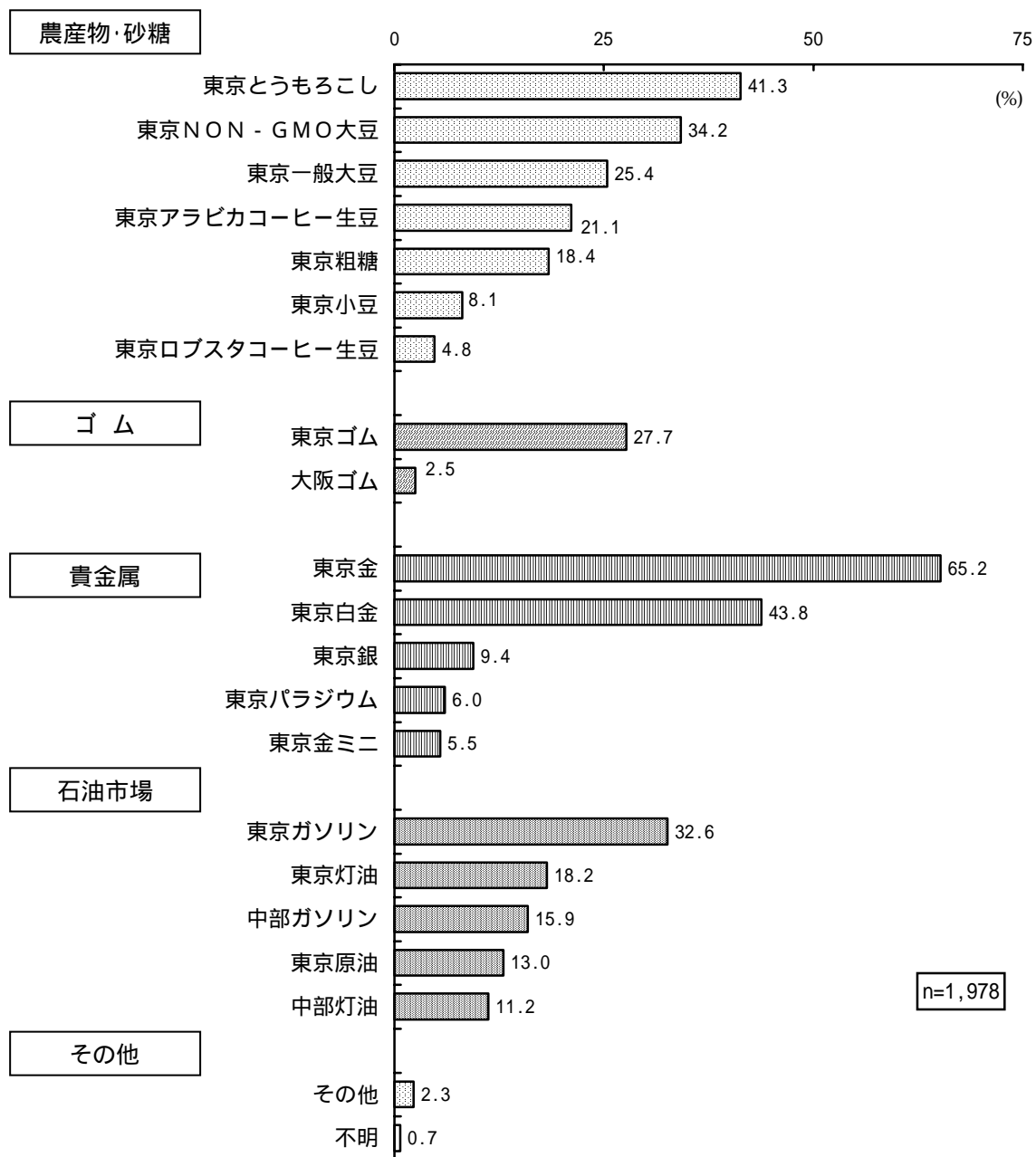
「農産物」では「東京とうもろこし」が41.3%と多くなっている。

「ゴム」では「東京ゴム」が27.7%と多くなっている。

「貴金属」では「東京金」が65.2%と、回答者の過半数が取引を行なっている。また、「東京白金」も43.8%と多く、全体で2番目に取引が多い。

「石油市場」では「東京ガソリン」が32.6%と多くなっている。(図表10)

図表 10：商品先物取引を行った商品（全体）【複数回答】



性別、年齢別にみても、大きな違いはみられない。(図表11)

図表 11：商品先物取引を行った商品（性別、年齢別）【複数回答】

(上段実数 / 下段%)

	農産物・砂糖							ゴム	
	東京とうもろこし	東京NON GMO大豆	東京一般大豆	東京アラビカコーヒー生豆	東京粗糖	東京小豆	東京ロブスタコーヒー生豆	東京ゴム	大阪ゴム
全体 (n=1,978)	816 41.3	677 34.2	503 25.4	418 21.1	363 18.4	161 8.1	94 4.8	547 27.7	50 2.5
男性 (n=1,736)	732 42.2	584 33.6	436 25.1	363 20.9	324 18.7	150 8.6	87 5.0	501 28.9	48 2.8
女性 (n=217)	69 31.8	83 38.2	56 25.8	45 20.7	30 13.8	9 4.1	4 1.8	40 18.4	0 0.0
*29歳以下 (n=16)	4 25.0	2 12.5	3 18.8	3 18.8	3 18.8	0 0.0	1 6.3	5 31.3	0 0.0
30歳代 (n=215)	95 44.2	81 37.7	58 27.0	51 23.7	42 19.5	17 7.9	11 5.1	57 26.5	7 3.3
40歳代 (n=396)	181 45.7	160 40.4	120 30.3	99 25.0	80 20.2	49 12.4	31 7.8	135 34.1	16 4.0
50歳代 (n=561)	226 40.3	194 34.6	135 24.1	112 20.0	98 17.5	36 6.4	28 5.0	151 26.9	14 2.5
60歳代 (n=509)	194 38.1	162 31.8	119 23.4	94 18.5	89 17.5	34 6.7	17 3.3	130 25.5	7 1.4
70歳代 (n=241)	97 40.2	67 27.8	55 22.8	47 19.5	43 17.8	18 7.5	3 1.2	58 24.1	4 1.7
*80歳以上 (n=26)	9 34.6	5 19.2	5 19.2	6 23.1	3 11.5	6 23.1	1 3.8	8 30.8	1 3.8

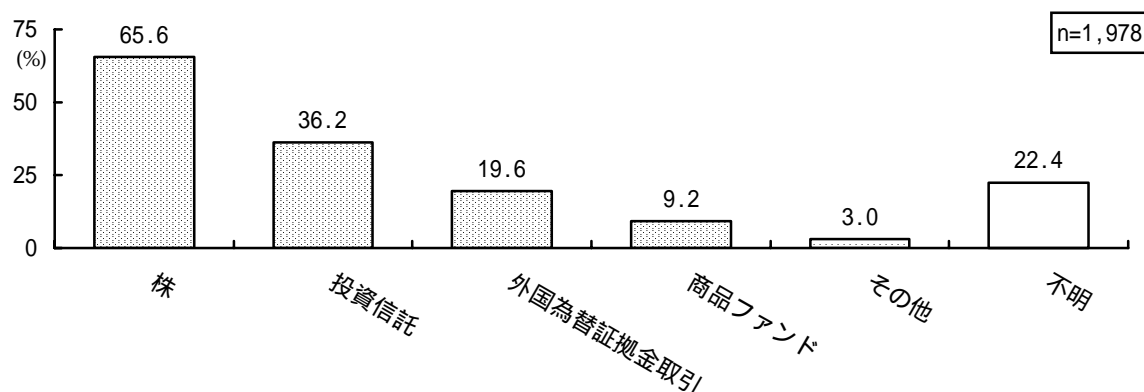
	貴金属					石油市場					その他
	東京金	東京白金	東京銀	東京パラジウム	東京金ミニ	東京ガソリン	東京灯油	中部ガソリン	東京原油	中部灯油	
全体 (n=1,978)	1289 65.2	867 43.8	186 9.4	119 6.0	108 5.5	644 32.6	360 18.2	315 15.9	257 13.0	221 11.2	45 2.3
男性 (n=1,736)	1153 66.4	788 45.4	165 9.5	111 6.4	103 5.9	580 33.4	325 18.7	238 13.7	229 13.2	161 9.3	42 2.4
女性 (n=217)	118 54.4	65 30.0	19 8.8	6 2.8	4 1.8	54 24.9	32 14.7	70 32.3	25 11.5	57 26.3	3 1.4
*29歳以下 (n=16)	12 75.0	6 37.5	2 12.5	0 0.0	3 18.8	7 43.8	2 12.5	1 6.3	1 6.3	1 6.3	0 0.0
30歳代 (n=215)	135 62.8	95 44.2	23 10.7	7 3.3	15 7.0	91 42.3	50 23.3	42 19.5	40 18.6	29 13.5	4 1.9
40歳代 (n=396)	242 61.1	173 43.7	44 11.1	22 5.6	28 7.1	171 43.2	93 23.5	82 20.7	78 19.7	63 15.9	17 4.3
50歳代 (n=561)	357 63.6	249 44.4	50 8.9	35 6.2	33 5.9	164 29.2	103 18.4	108 19.3	66 11.8	78 13.9	10 1.8
60歳代 (n=509)	355 69.7	230 45.2	47 9.2	37 7.3	21 4.1	141 27.7	82 16.1	61 12.0	49 9.6	38 7.5	9 1.8
70歳代 (n=241)	160 66.4	99 41.1	18 7.5	14 5.8	6 2.5	60 24.9	26 10.8	17 7.1	19 7.9	11 4.6	5 2.1
*80歳以上 (n=26)	18 69.2	8 30.8	1 3.8	3 11.5	2 7.7	3 11.5	1 3.8	2 7.7	1 3.8	0 0.0	0 0.0

注) 図表中 *印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

-6.商品先物取引以外に取引経験のある金融商品

商品先物取引以外に取引経験のある金融商品については、「株」が65.6%と最も多くなっている。次いで、「投資信託」(36.2%)、「外国為替証拠金取引」(19.6%)となっている。(図表12)

図表12：商品先物取引以外に取引経験のある金融商品（全体）【複数回答】



性別、年齢別で見ると、いずれも「株」が最も多くなっているが、年齢が上がるほどその割合が高まる傾向にある。また、「40歳代」以下で「外国為替証拠金取引」が1/4以上とやや多くなっている。(図表13)

図表13：商品先物取引以外に取引経験のある金融商品（性別、年齢別）【複数回答】

(上段実数 / 下段%)

	株	投資信託	外国為替 証拠金取引	商品 ファンド	その他	不明
全体 (n=1,978)	1298 65.6	717 36.2	388 19.6	188 9.2	59 3.0	443 22.4
男性 (n=1,736)	1155 66.5	621 35.8	347 20.0	162 9.3	53 3.1	381 21.9
女性 (n=217)	128 59.0	89 41.0	36 16.6	16 7.4	4 1.8	56 25.8
* 29歳以下 (n=16)	9 56.3	2 12.5	6 37.5	1 6.3	1 6.3	6 37.5
30歳代 (n=215)	118 54.9	68 31.6	57 26.5	20 9.3	14 6.5	60 27.9
40歳代 (n=396)	246 62.1	137 34.6	101 25.5	45 11.4	15 3.8	100 25.3
50歳代 (n=561)	356 63.5	204 36.4	95 16.9	56 10.0	12 2.1	127 22.6
60歳代 (n=509)	366 71.9	199 39.1	78 15.3	36 7.1	11 2.2	93 18.3
70歳代 (n=241)	174 72.2	91 37.8	44 18.3	20 8.3	4 1.7	51 21.2
* 80歳以上 (n=26)	21 80.8	12 46.2	3 11.5	1 3.8	1 3.8	3 11.5

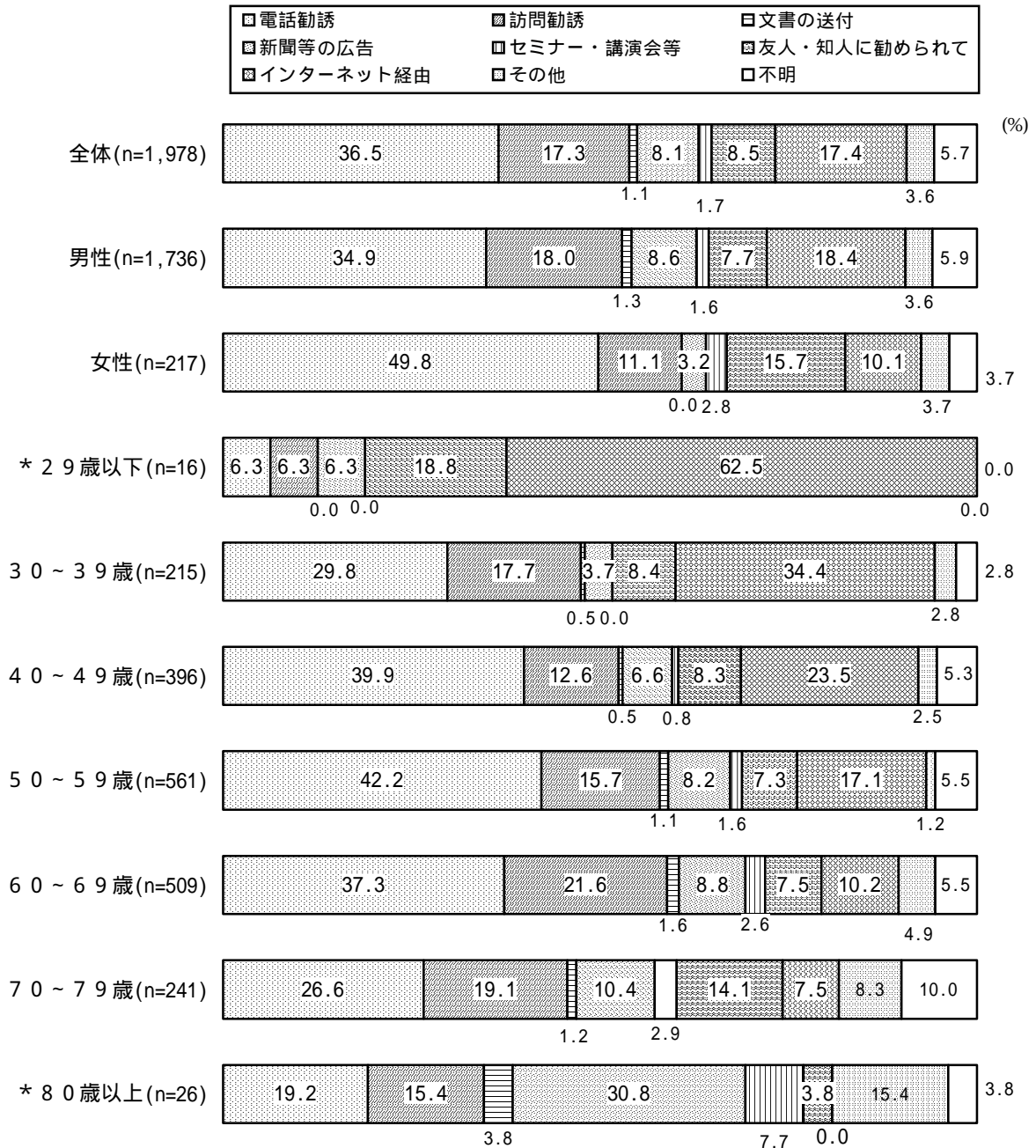
注) 図表中 * 印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

-7.現在の商品取引員と取引をしているきっかけ

現在の商品取引員と取引をしているきっかけについては、「電話勧誘を受けて」が36.5%、「訪問勧誘を受けて」が17.3%となっており、約5割が商品取引員からの勧誘がきっかけになっている。

性別、年齢別でみると、商品取引員からの勧誘が多いという傾向は同じであるが、年齢層が下がるほど「インターネットを経由して」が多くなっている。(図表14)

図表 14：現在の商品取引員と取引をしているきっかけ（全体、性別、年齢別）

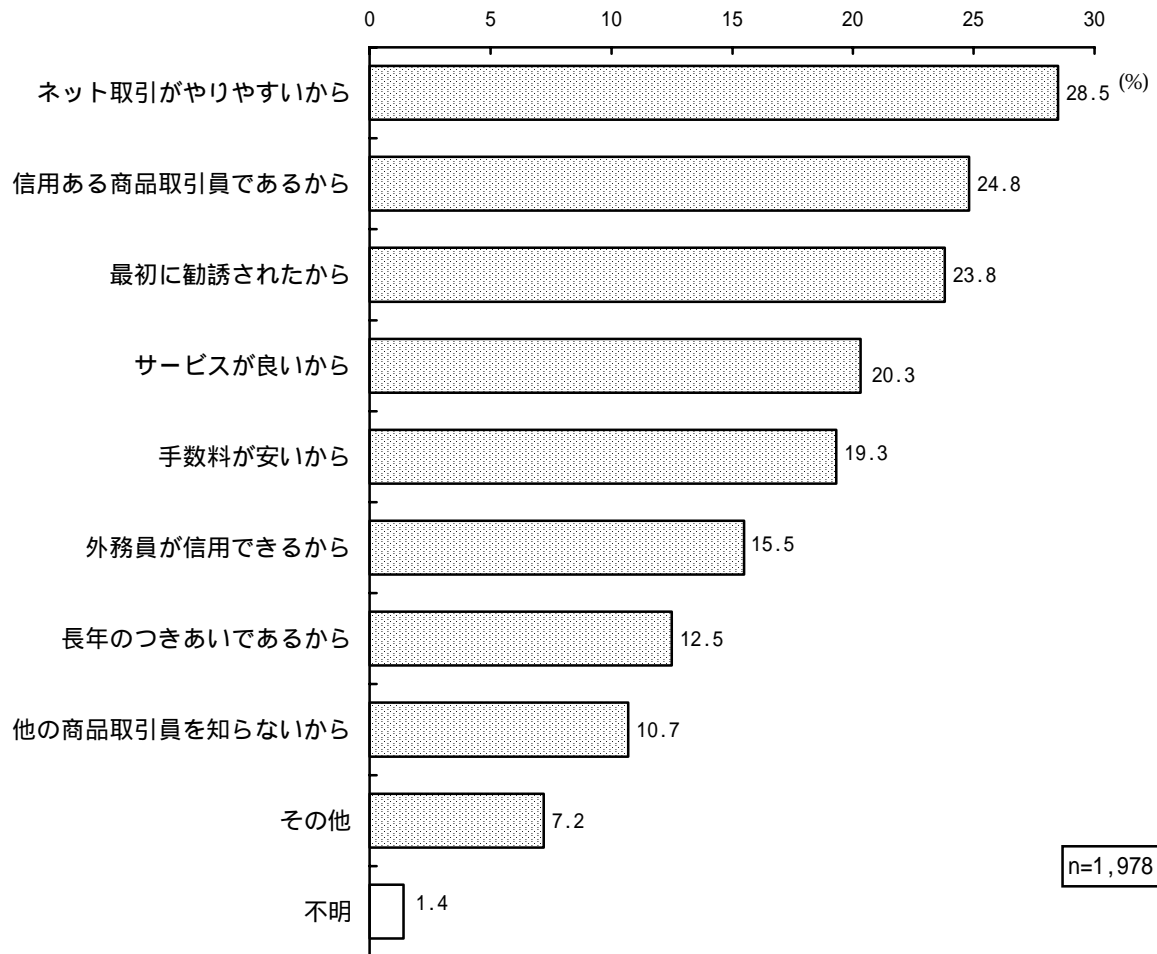


注)図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

-8.現在の商品取引員と取引をしている理由

現在の商品取引員と取引をしている理由については、「ネット取引がやりやすいから」が28.5%と最も多くなっており、次いで、「信用ある商品取引員であるから」(24.8%)、「最初に勧誘されたから」(23.8%)となっている。(図表 15)

図表 15：現在の商品取引員と取引をしている理由（全体）



性別でみると、「男性」で「ネット取引がやりやすいから」(29.9%)、「女性」で「最初に勧誘されたから」(33.6%)が最も多くなっている。

年齢別でみると、「50歳代」以下で「ネット取引がやりやすいから」が最も多くなっている。
(図表 16)

図表 16：現在の商品取引員と取引をしている理由（性別、年齢別）【複数回答】

(上段実数 / 下段%)

	ネット取引がやりやすいから	信用ある商品取引員であるから	最初に勧誘されたから	サービスが良いから	手数料が安いから	外務員が信用できるから	長年のつきあいであるから	他の商品取引員を知らないから	その他	不明
全体 (n=1,978)	564 28.5	491 24.8	471 23.8	402 20.3	382 19.3	306 15.5	248 12.5	212 10.7	143 7.2	27 1.4
男性 (n=1,736)	519 29.9	426 24.5	395 22.8	341 19.6	341 19.6	264 15.2	228 13.1	170 9.8	121 7.0	24 1.4
女性 (n=217)	40 18.4	54 24.9	73 33.6	53 24.4	37 17.1	38 17.5	16 7.4	42 19.4	19 8.8	2 0.9
*29歳以下 (n=16)	10 62.5	3 18.8	2 12.5	4 25.0	7 43.8	0 0.0	1 6.3	1 6.3	1 6.3	0 0.0
30歳代 (n=215)	89 41.4	44 20.5	57 26.5	47 21.9	64 29.8	21 9.8	8 3.7	12 5.6	12 5.6	1 0.5
40歳代 (n=396)	151 38.1	74 18.7	90 22.7	79 19.9	89 22.5	49 12.4	37 9.3	44 11.1	27 6.8	1 0.3
50歳代 (n=561)	165 29.4	127 22.6	130 23.2	104 18.5	115 20.5	81 14.4	62 11.1	68 12.1	45 8.0	9 1.6
60歳代 (n=509)	101 19.8	126 24.8	145 28.5	111 21.8	69 13.6	92 18.1	74 14.5	70 13.8	38 7.5	9 1.8
70歳代 (n=241)	44 18.3	97 40.2	41 17.0	48 19.9	36 14.9	57 23.7	54 22.4	15 6.2	17 7.1	5 2.1
*80歳以上 (n=26)	2 7.7	15 57.7	3 11.5	5 19.2	1 3.8	4 15.4	9 34.6	1 3.8	2 7.7	1 3.8

注) 図表中 *印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「電話勧誘を受けて」、「訪問勧誘を受けて」で「最初に勧誘されたから」が4割近くと最も多くなっている。また、「インターネットを經由して」では、「ネット取引がやりやすいから」(76.5%)、「手数料が安いから」(51.0%)が多くなっている。それ以外では、「信用ある商品取引員であるから」が最も多くなっている。(図表17)

図表 17：現在の商品取引員と取引をしている理由（取引のきっかけ別）【複数回答】

(上段実数 / 下段%)

	ネット取引がやりやすいから	信用ある商品取引員であるから	最初に勧誘されたから	サービスが良いから	手数料が安いから	外務員が信用できるから	長年のつきあいであるから	他の商品取引員を知らないから	その他	不明
全体 (n=1,978)	564 28.5	491 24.8	471 23.8	402 20.3	382 19.3	306 15.5	248 12.5	212 10.7	143 7.2	27 1.4
電話勧誘を受けて (n=722)	93 12.9	170 23.5	265 36.7	119 16.5	59 8.2	120 16.6	90 12.5	102 14.1	59 8.2	11 1.5
訪問勧誘を受けて (n=342)	41 12.0	70 20.5	133 38.9	62 18.1	22 6.4	59 17.3	56 16.4	42 12.3	27 7.9	5 1.5
*文書の送付を受けて (n=22)	4 18.2	8 36.4	7 31.8	5 22.7	2 9.1	6 27.3	4 18.2	2 9.1	1 4.5	0 0.0
新聞等の広告を見て (n=160)	61 38.1	61 38.1	14 8.8	41 25.6	46 28.8	20 12.5	18 11.3	12 7.5	6 3.8	2 1.3
セミナー・講演会等に 出席して(n=34)	6 17.6	13 38.2	6 17.6	13 38.2	6 17.6	7 20.6	7 20.6	4 11.8	4 11.8	0 0.0
友人・知人に勧められ て(n=169)	37 21.9	46 27.2	19 11.2	40 23.7	29 17.2	35 20.7	22 13.0	22 13.0	14 8.3	2 1.2
インターネットを經由 して(n=345)	264 76.5	58 16.8	5 1.4	74 21.4	176 51.0	18 5.2	10 2.9	9 2.6	16 4.6	1 0.3
その他 (n=72)	13 18.1	23 31.9	8 11.1	13 18.1	10 13.9	18 25.0	19 26.4	11 15.3	8 11.1	0 0.0

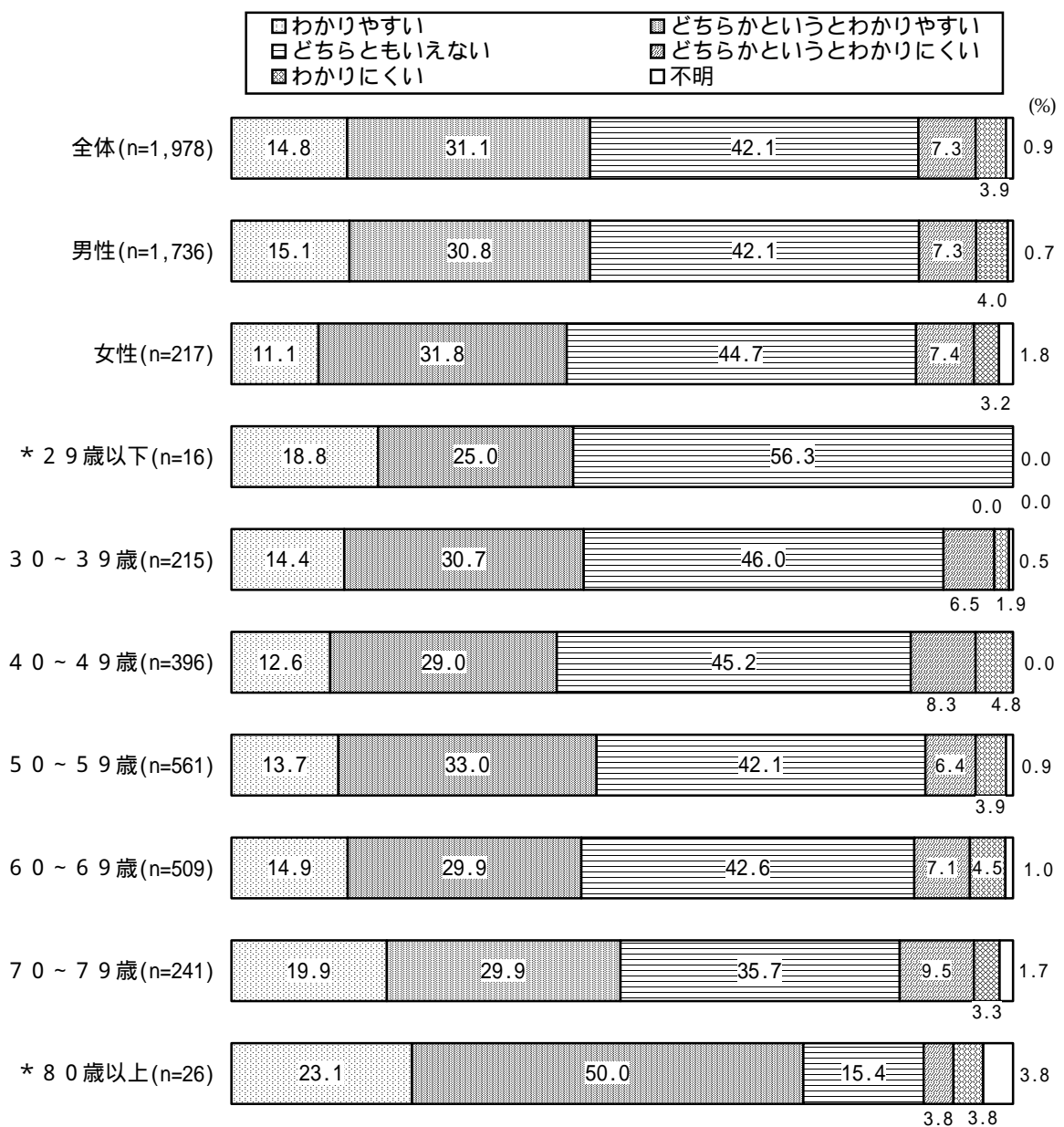
注) 図表中 *印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

-9.「商品先物取引・委託のガイド」のわかりやすさ

「商品先物取引・委託のガイド」のわかりやすさについては、「わかりやすい」が14.8%、「どちらかというわかりやすい」が31.1%となっており、合計すると約5割がわかりやすいとなっている。これに対して、「わかりにくい」は3.9%、「どちらかといえばわかりにくい」が7.3%となっており、合計すると約1割がわかりにくいとなっている。

性別、年齢別でも、サンプル数の少ない「29歳以下」、「80歳以上」を除いて、大きな違いはみられない。(図表18)

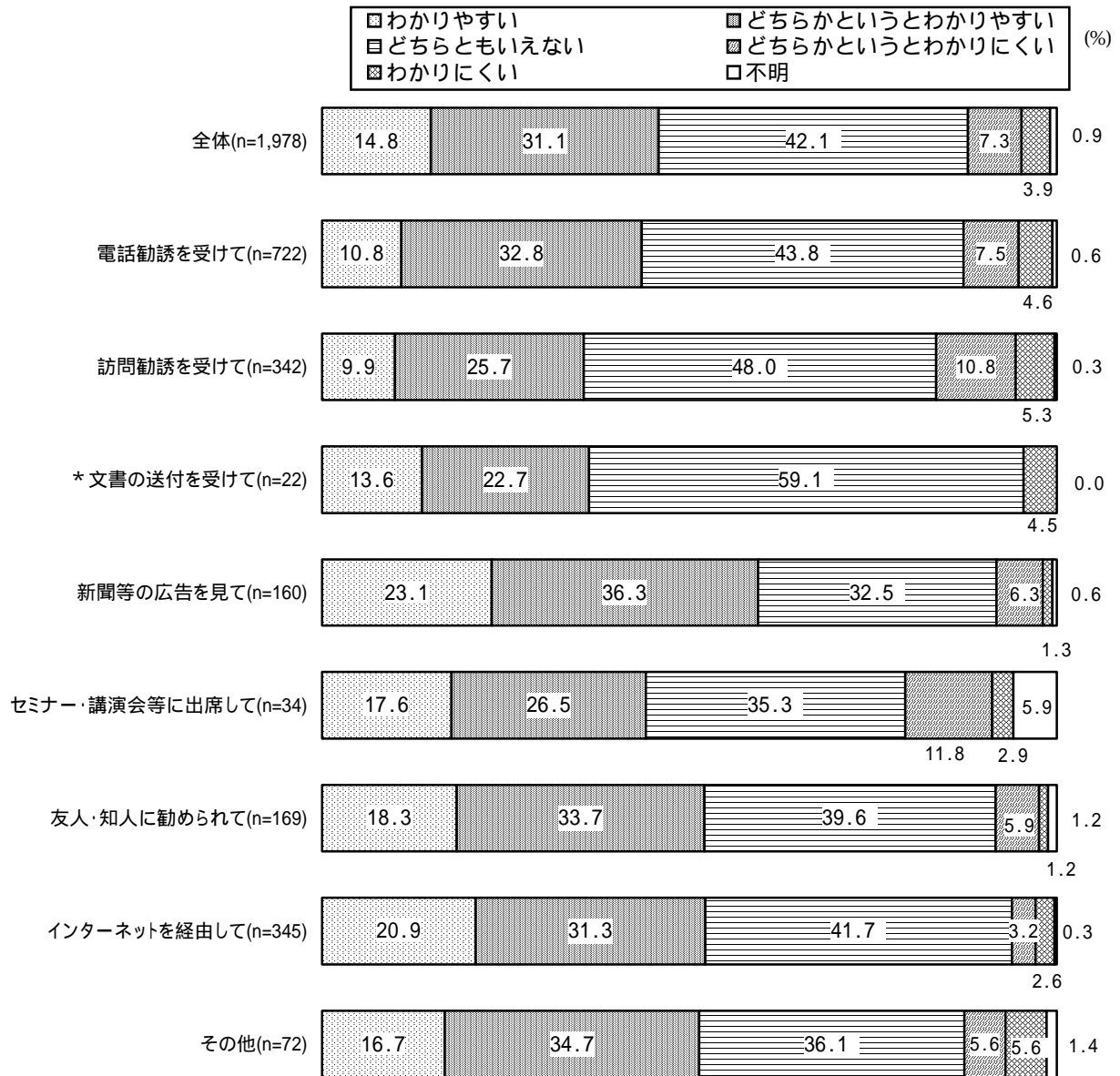
図表18:「商品先物取引・委託のガイド」のわかりやすさ(全体、性別、年齢別)



注) 図表中 * 印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「新聞等の広告を見て」で「わかりやすい」、「どちらかというわかりやすい」の合計が約6割とやや多くなっている。これに対して、「電話勧誘を受けて」、「訪問勧誘を受けて」では「わかりやすい」、「どちらかというわかりやすい」の合計が4割前後とやや少なくなっている。(図表19)

図表 19：「商品先物取引・委託ガイド」のわかりやすさ（取引のきっかけ別）



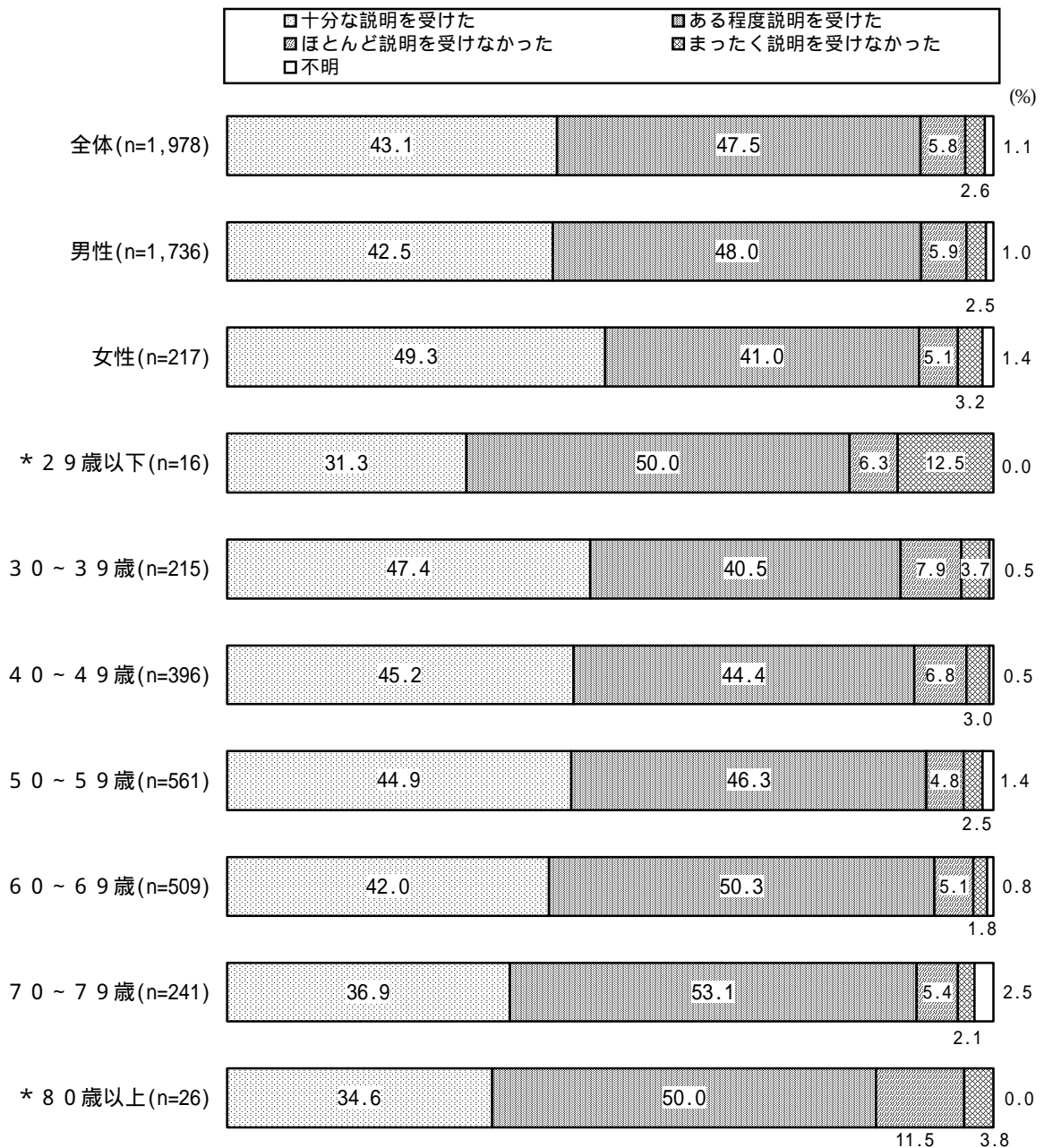
注) 図表中 *印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

-10.商品先物取引を始めるにあたっての商品取引員からの説明

商品先物取引を始める際の説明については、「十分な説明を受けた」が43.1%、「ある程度説明を受けた」が47.5%となっており、合計すると約9割に上っている。これに対して、「ほとんど説明を受けなかった」(5.8%)、「まったく説明を受けなかった」(2.6%)との回答もみられる。

性別、年齢別でも、サンプル数の少ない「29歳以下」と「80歳以上」を除いて、大きな違いはみられない。(図表20)

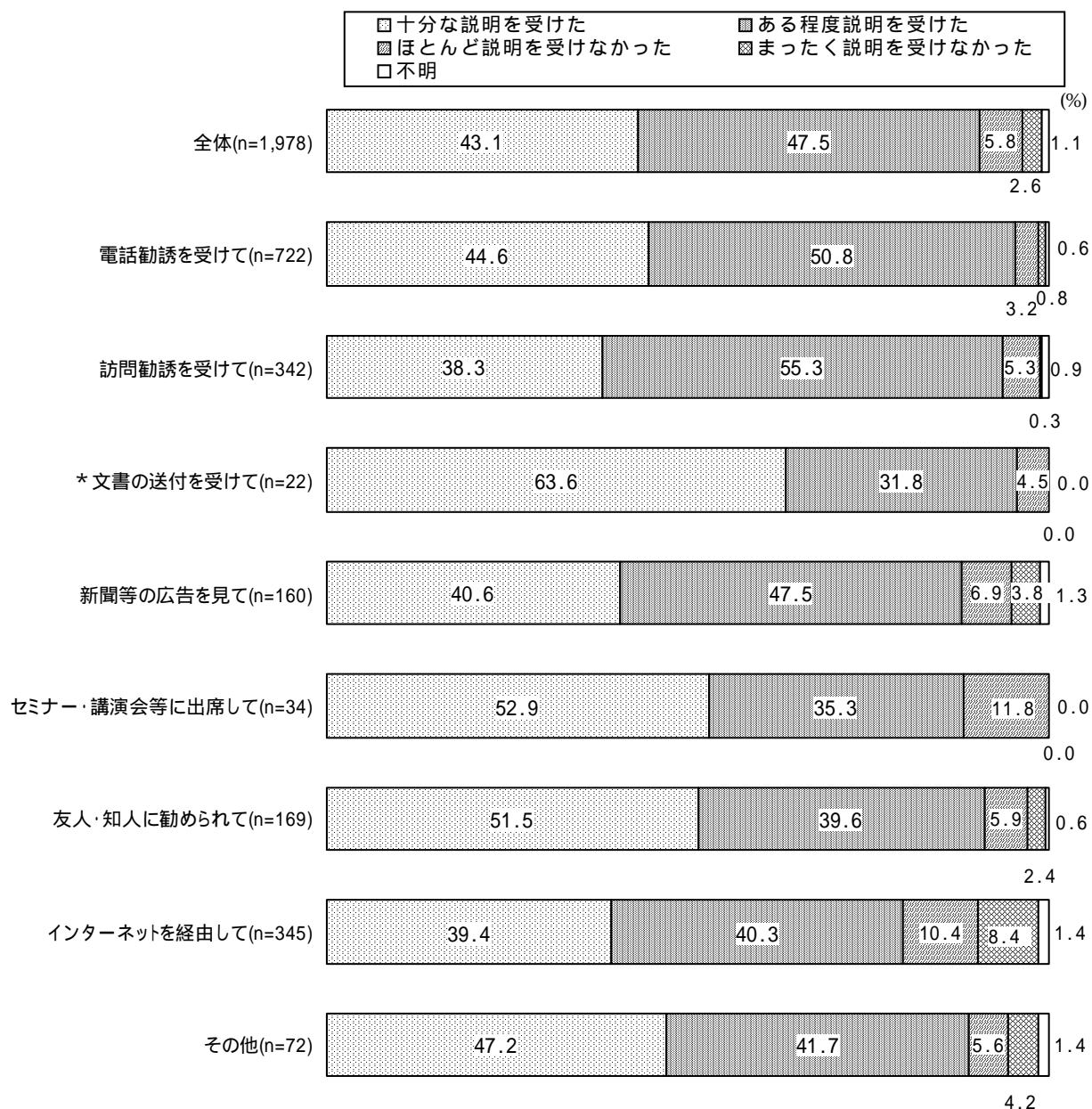
図表 20：商品先物取引を始めるにあたっての商品取引員からの説明（全体、性別、年齢別）



注) 図表中 * 印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「インターネットを經由して」で「十分な説明を受けた」と「ある程度説明を受けた」の合計が 79.7%とやや少なくなっているが、これはインターネットでの申込みは必ずしも対面での説明が行われるわけではないためと考えられる。(図表 21) しながら、「 - 11 . 商品先物取引を始めるにあたっての商品先物取引の仕組みの理解」では「インターネットを經由して」と回答した委託者の理解度は高くなっている。(図表 23)

図表 21：商品先物取引を始めるにあたっての商品取引員からの説明（取引のきっかけ別）



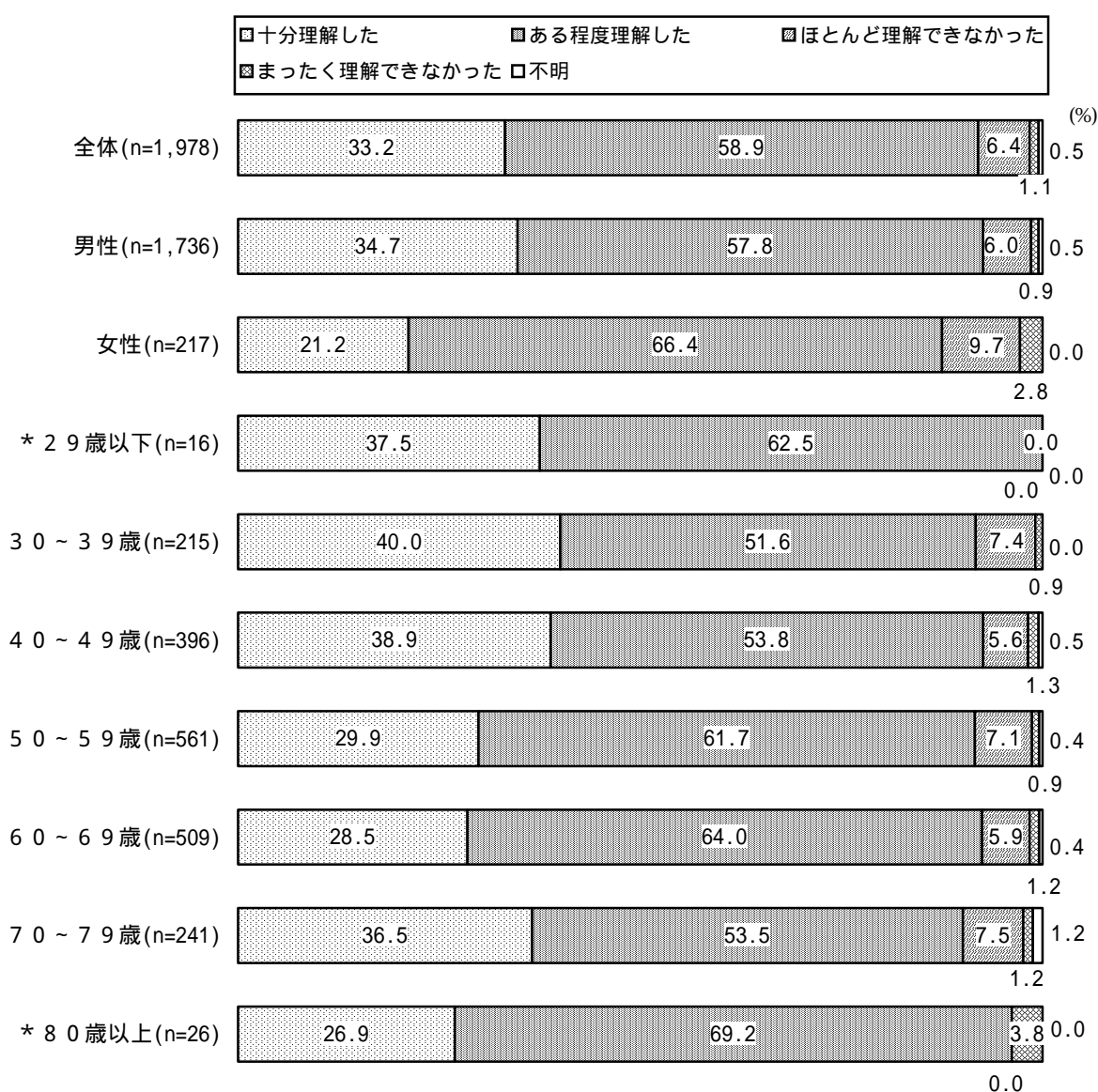
注) 図表中 *印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

-11.商品先物取引を始めるにあたっての商品先物取引の仕組みの理解

商品先物取引を始めるにあたっての商品先物取引の仕組みを理解したかについては、「十分理解した」が33.2%、「ある程度理解した」が58.9%となっており、合計すると約9割に上っている。これに対して、「ほとんど理解できなかった」(6.4%)、「まったく理解できなかった」(1.1%)との回答もみられる。

性別でみると、「女性」で「十分理解した」が21.2%と少なく、「ほとんど理解できなかった」(9.7%)、「まったく理解できなかった」(2.8%)がやや多くなっている。(図表22)

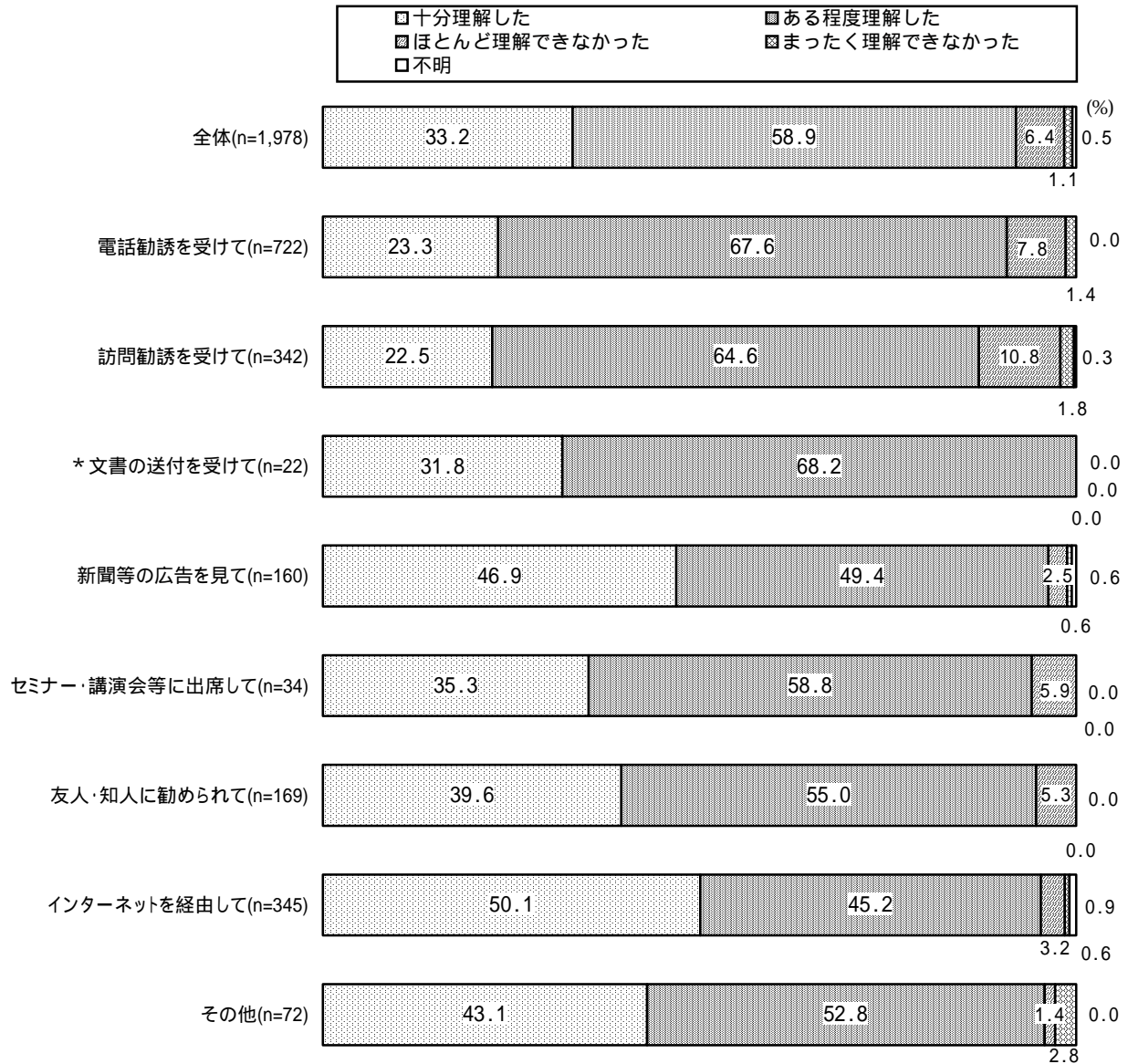
図表 22：商品先物取引の仕組みの理解（全体、性別、年齢別）



注) 図表中 * 印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「電話勧誘を受けて」と「訪問勧誘を受けて」で「十分理解した」が約2割と少なくなっている。これに対して、「インターネットを經由して」では「十分理解した」が50.1%と最も多くなっており、「新聞等の広告を見て」、「友人・知人に勧められて」、「セミナー・講演会等に出席して」でも、「十分理解した」が4割前後となっている。（図表23）

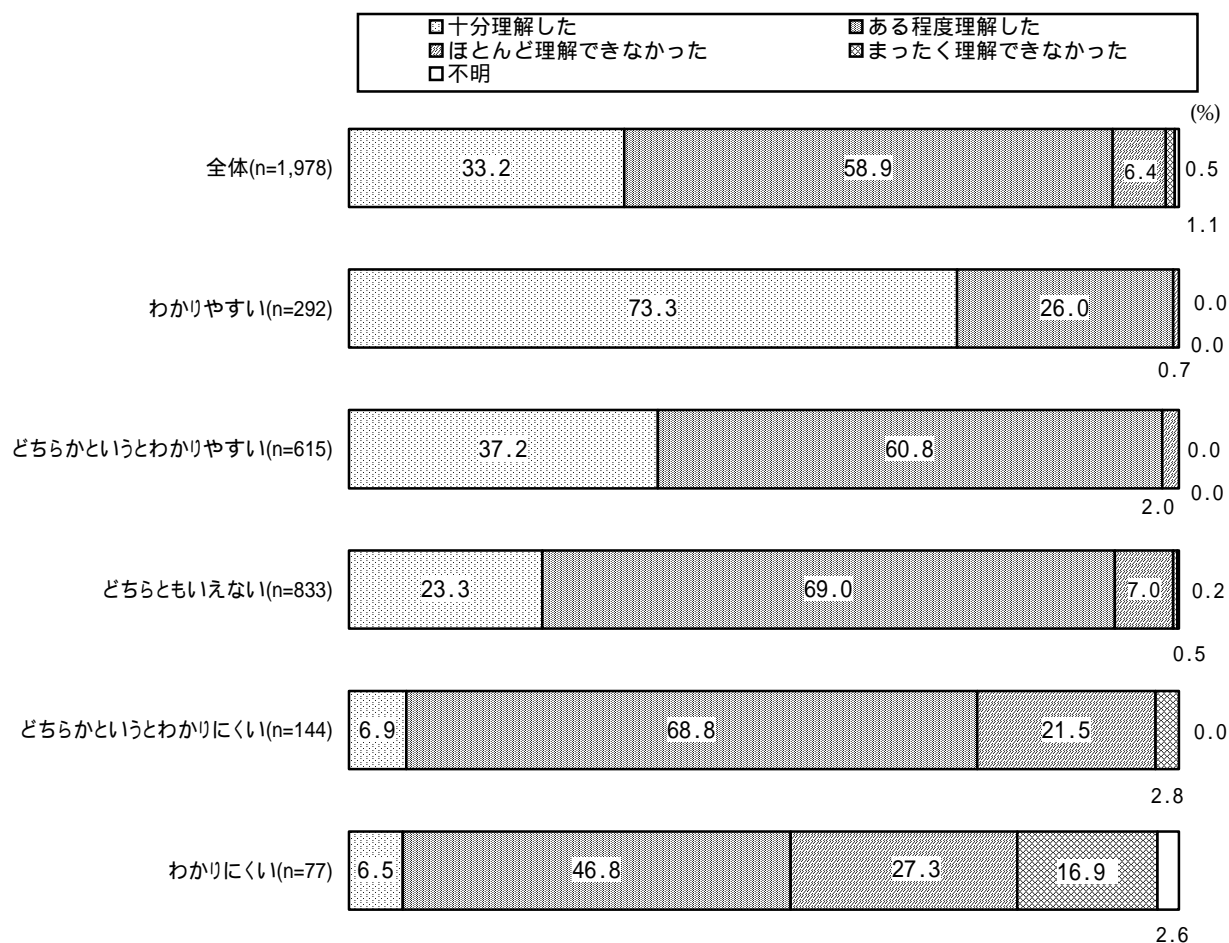
図表 23：商品先物取引の仕組みの理解（取引のきっかけ別）



注) 図表中*印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

「商品先物取引・委託のガイド」のわかりやすさ別でみると、「わかりやすい」で「十分理解した」が73.3%と最も多くなっている。また、「どちらともいえない」でも、「十分理解した」、「ある程度理解した」の合計が約9割に上っている。これに対して「わかりにくい」では「ほとんど理解できなかった」、「まったく理解できなかった」の合計が約4割を超えている。(図表24)

図表 24：商品先物取引の仕組みの理解（「商品先物取引・委託のガイド」のわかりやすさ別）

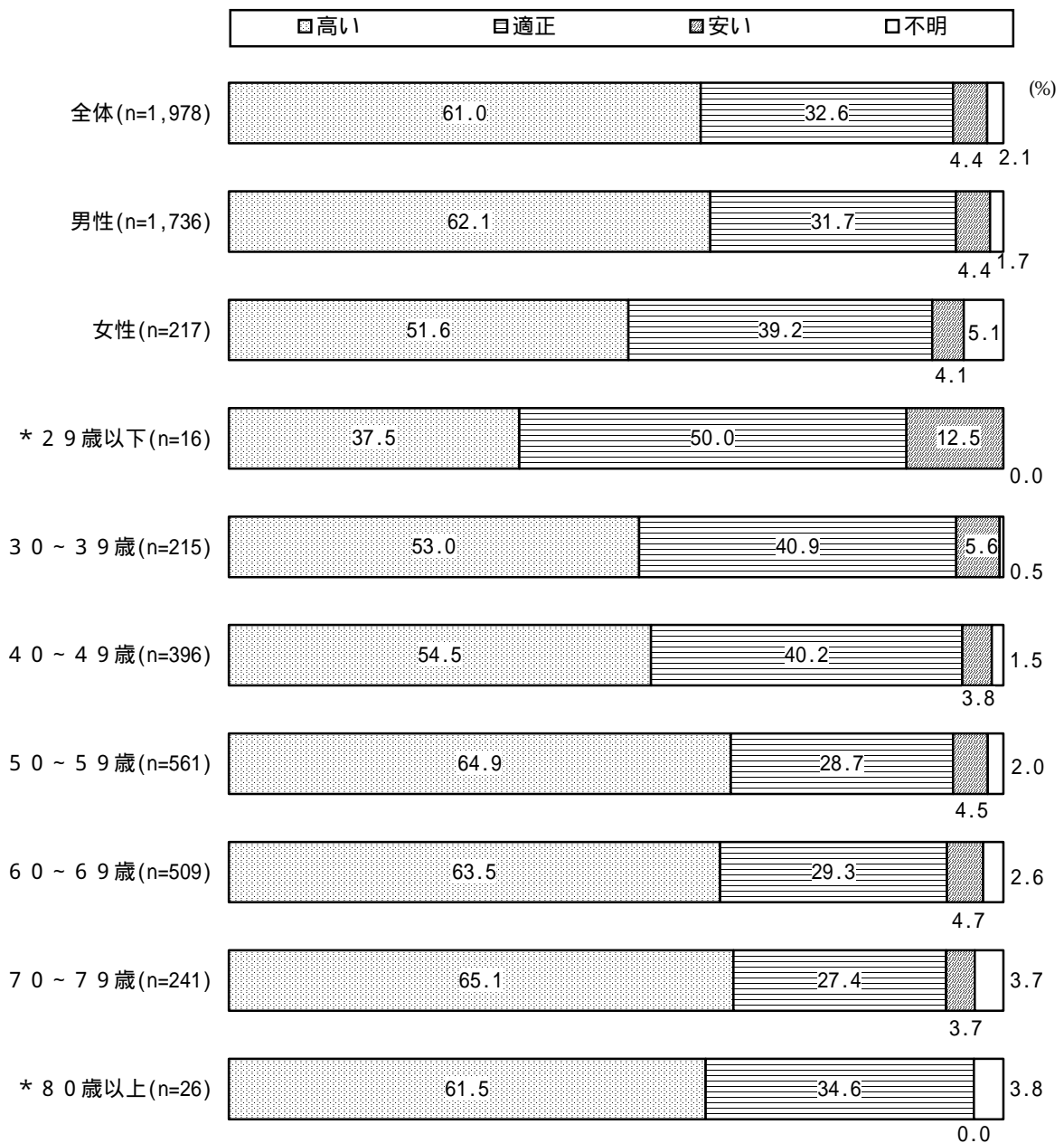


-12.委託手数料について

委託手数料については、「高い」が61.0%、「適正」が32.6%、「安い」が4.4%となっており、高いと考えている割合が多くなっている。

年齢別でみると、「40～49歳」以下で「適正」が4割を超えており、やや多くなっている。
(図表 25)

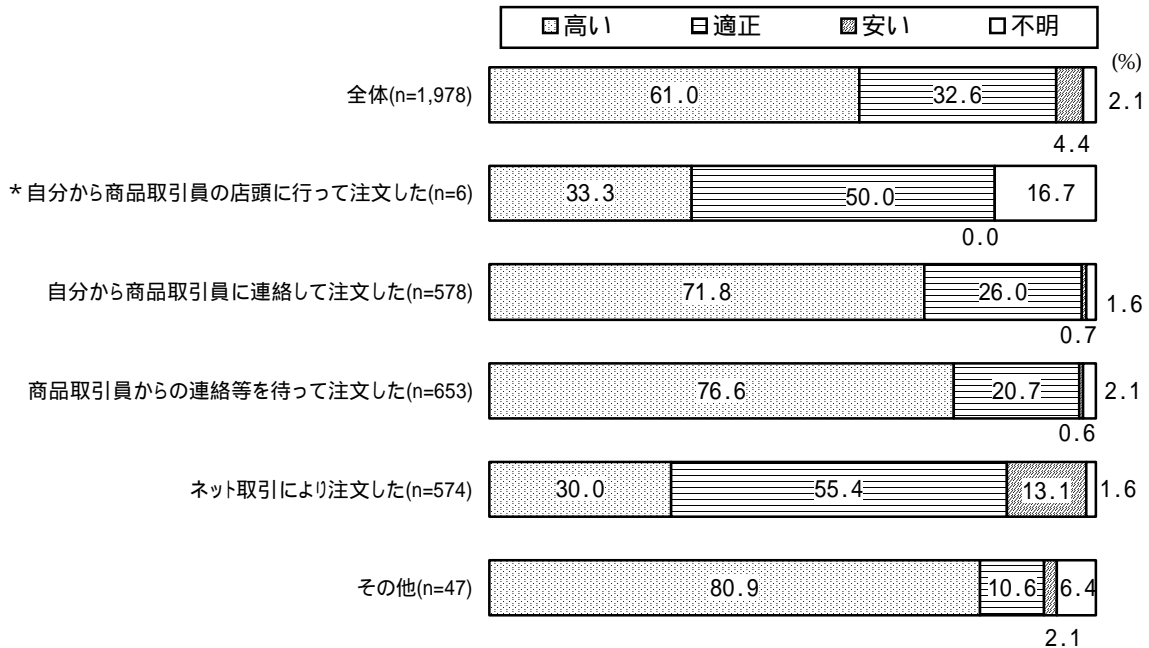
図表 25：委託手数料について（全体、性別、年齢別）



注) 図表中 * 印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

これまでの注文方法別でみると、「ネット取引により注文した」で「適正」が 55.4%、「安い」が 13.1%になっており、適正と考える割合が多くなっている。(図表 26)

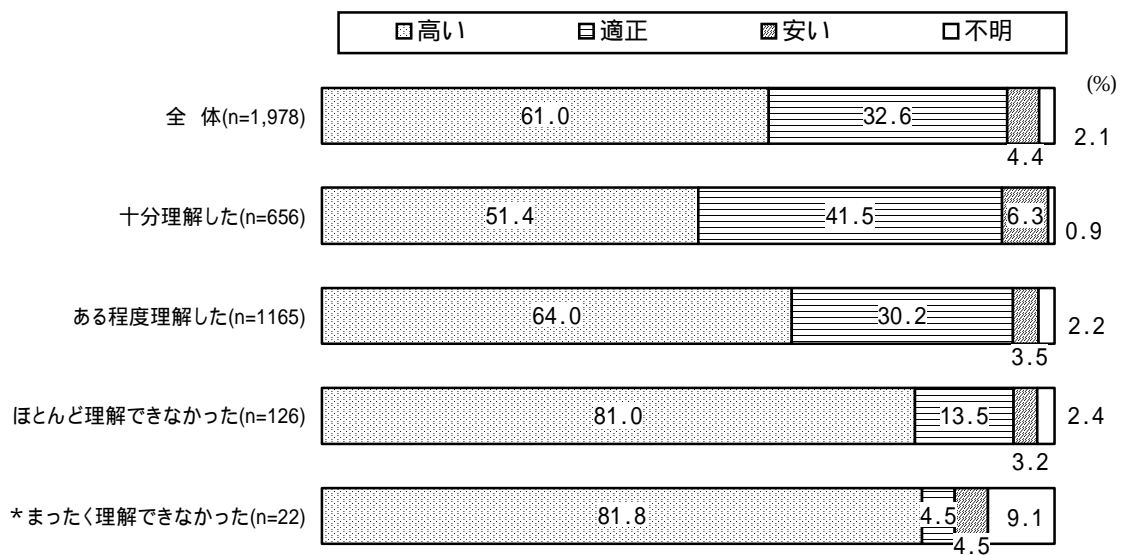
図表 26：委託手数料について（これまでの注文方法別）



注) 図表中*印のついた「自分から商品取引員の店頭に行って注文した」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

商品先物取引の仕組みの理解別でみると、いずれも「高い」が過半数となっているが、「十分理解した」では「適正」が 41.5%と多くなっており、商品先物取引の仕組みを理解している委託者ほど「適正」と考える割合が多くなっている。(図表 27)

図表 27：委託手数料について（商品先物取引の仕組みの理解別）

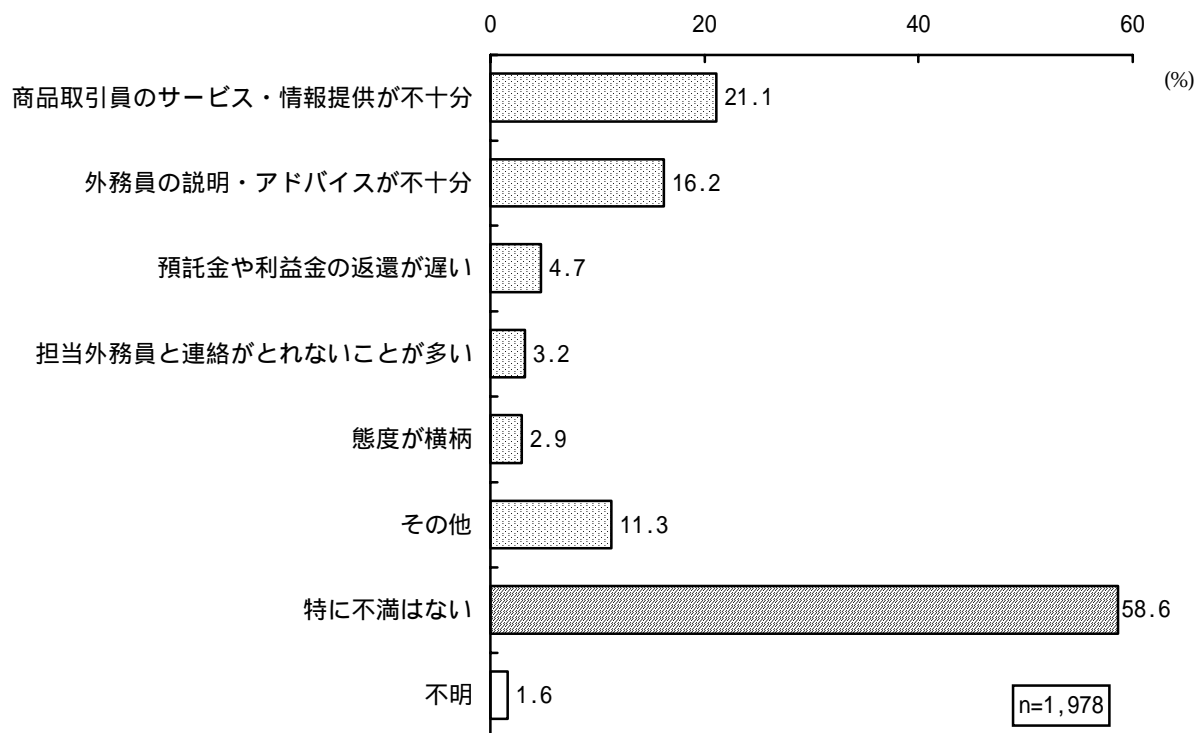


注) 図表中*印のついた「まったく理解できなかった」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

-13.商品取引員に対する不満

商品取引員に対する不満については、「特に不満はない」が約6割と最も多くなっており、過半数は不満を持っていない。しかしながら、「商品取引員のサービス・情報提供が不十分」(21.1%)、「外務員の説明・アドバイスが不十分」(16.2%)が2割前後となっており、また、「預託金や利益金の返金が遅い」(4.7%)や「担当外務員と連絡がとれないことが多い」(3.2%)との回答もみられる。(図表 28)

図表 28：商品取引員に対する不満（全体）【複数回答】



性別、年齢別でも、サンプル数の少ない「29歳以下」、「80歳以上」を除いて、大きな違いはみられない。(図表29)

図表 29：商品取引員に対する不満（性別、年齢別）【複数回答】

(上段実数 / 下段%)

	特に不満はない	商品取引員のサービス・情報提供が不十分	外務員の説明・アドバイスが不十分	預託金や利益金の返還が遅い	担当外務員と連絡がとれないことが多い	態度が横柄	その他	不明
全体 (n=1,978)	1159 58.6	418 21.1	320 16.2	93 4.7	64 3.2	58 2.9	223 11.3	32 1.6
男性 (n=1,736)	1023 58.9	364 21.0	275 15.8	80 4.6	55 3.2	52 3.0	198 11.4	22 1.3
女性 (n=217)	124 57.1	50 23.0	39 18.0	12 5.5	9 4.1	6 2.8	21 9.7	8 3.7
* 29歳以下 (n=16)	13 81.3	3 18.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
30歳代 (n=215)	128 59.5	43 20.0	28 13.0	7 3.3	4 1.9	6 2.8	33 15.3	2 0.9
40歳代 (n=396)	228 57.6	91 23.0	74 18.7	26 6.6	18 4.5	10 2.5	52 13.1	6 1.5
50歳代 (n=561)	327 58.3	114 20.3	98 17.5	23 4.1	17 3.0	21 3.7	52 9.3	9 1.6
60歳代 (n=509)	286 56.2	110 21.6	82 16.1	24 4.7	19 3.7	14 2.8	64 12.6	8 1.6
70歳代 (n=241)	151 62.7	48 19.9	30 12.4	11 4.6	6 2.5	6 2.5	18 7.5	7 2.9
* 80歳以上 (n=26)	20 76.9	4 15.4	3 11.5	1 3.8	0 0.0	1 3.8	2 7.7	0 0.0

注)図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別で見ると、「電話勧誘を受けて」、「訪問勧誘を受けて」で「商品取引員のサービス・情報提供が不十分」、「外務員の説明・アドバイスが不十分」の割合がやや多くなっている。

商品先物取引の仕組みの理解別で見ると、「十分理解した」で「特に不満はない」が78.4%となっているのに対し、「ほとんど理解できなかった」では「特に不満はない」が25.4%になるなど、仕組みを十分理解せずに取引をしている委託者で不満を持つ割合が多くなっている。

これまでの注文方法別で見ると、「自分から商品取引員に連絡して注文した」、「ネット取引により注文した」で「特に不満はない」が過半数となっているが、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」では「特に不満はない」は43.0%となっており、約6割が不満を持っている。

(図表30)

図表 30：商品取引員に対する不満（取引のきっかけ等）【複数回答】

（上段実数 / 下段％）

		特に不満はない	商品取引員のサービス・情報提供が不十分	外務員の説明・アドバイスが不十分	預託金や利益金の返還が遅い	担当外務員と連絡がとれないことが多い	態度が横柄	その他	不明
全体 (n=1,978)		1159 58.6	418 21.1	320 16.2	93 4.7	64 3.2	58 2.9	223 11.3	32 1.6
取引のきっかけ	電話勧誘を受けて (n=722)	364 50.4	190 26.3	158 21.9	46 6.4	35 4.8	25 3.5	88 12.2	9 1.2
	訪問勧誘を受けて (n=342)	161 47.1	100 29.2	73 21.3	20 5.8	17 5.0	12 3.5	46 13.5	6 1.8
	*文書の送付を受けて (n=22)	11 50.0	5 22.7	5 22.7	0 0.0	1 4.5	0 0.0	3 13.6	0 0.0
	新聞等の広告を見て (n=160)	117 73.1	19 11.9	10 6.3	6 3.8	2 1.3	2 1.3	10 6.3	2 1.3
	セミナー・講演会等に出席して (n=34)	20 58.8	7 20.6	6 17.6	0 0.0	1 2.9	0 0.0	6 17.6	0 0.0
	友人・知人に勧められて (n=169)	114 67.5	30 17.8	19 11.2	7 4.1	1 0.6	3 1.8	9 5.3	3 1.8
	インターネットを經由して (n=345)	270 78.3	35 10.1	17 4.9	5 1.4	1 0.3	7 2.0	27 7.8	4 1.2
	その他(n=72)	46 63.9	9 12.5	10 13.9	2 2.8	1 1.4	4 5.6	15 20.8	1 1.4
商品先物取引の理解	十分理解した(n=656)	514 78.4	66 10.1	40 6.1	16 2.4	8 1.2	6 0.9	49 7.5	5 0.8
	ある程度理解した(n=1,165)	607 52.1	289 24.8	223 19.1	56 4.8	39 3.3	39 3.3	141 12.1	21 1.8
	ほとんど理解できなかった (n=126)	32 25.4	54 42.9	45 35.7	13 10.3	13 10.3	9 7.1	25 19.8	2 1.6
	*まったく理解できなかった (n=22)	5 22.7	8 36.4	10 45.5	7 31.8	4 18.2	3 13.6	6 27.3	0 0.0
これまでの注文方法	*自分から商品取引員の店頭 に行って注文した(n=6)	4 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7
	自分から商品取引員に連絡し て注文した(n=578)	370 64.0	115 19.9	84 14.5	24 4.2	25 4.3	8 1.4	43 7.4	5 0.9
	商品取引員からの連絡等を待 って注文した(n=653)	281 43.0	203 31.1	169 25.9	40 6.1	25 3.8	25 3.8	79 12.1	13 2.0
	ネット取引により注文した (n=574)	434 75.6	56 9.8	28 4.9	13 2.3	4 0.7	9 1.6	51 8.9	9 1.6
	その他(n=47)	12 25.5	14 29.8	14 29.8	3 6.4	2 4.3	5 10.6	24 51.1	0 0.0

注) 図表中*印のついた項目はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

-14.注文方法について

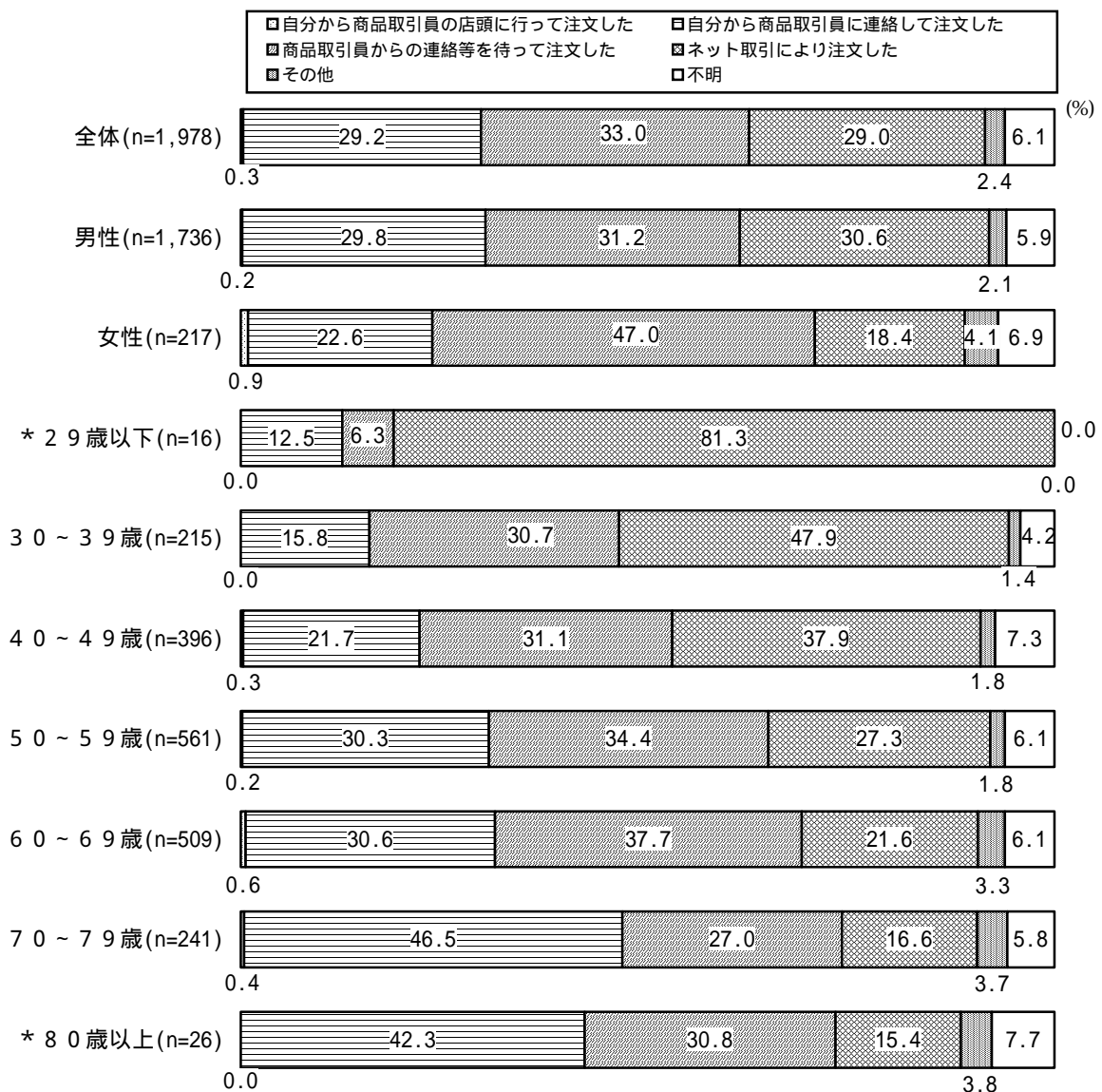
(1)これまでの注文方法

これまでの注文方法については、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」が33.0%と最も多くなっており、次いで、「自分から商品取引員に連絡して注文した」(29.2%)、「ネット取引により注文した」(29.0%)となっている。

性別でみると、「女性」で「商品取引員からの連絡等を待って注文した」が47.0%と多くなっている。

年齢別でみると、年齢層が下がるほど「ネット取引により注文した」が多くなっており、また、年齢層が上がるほど「自分から商品取引員に連絡して注文した」が多くなる傾向がみられる。(図表31)

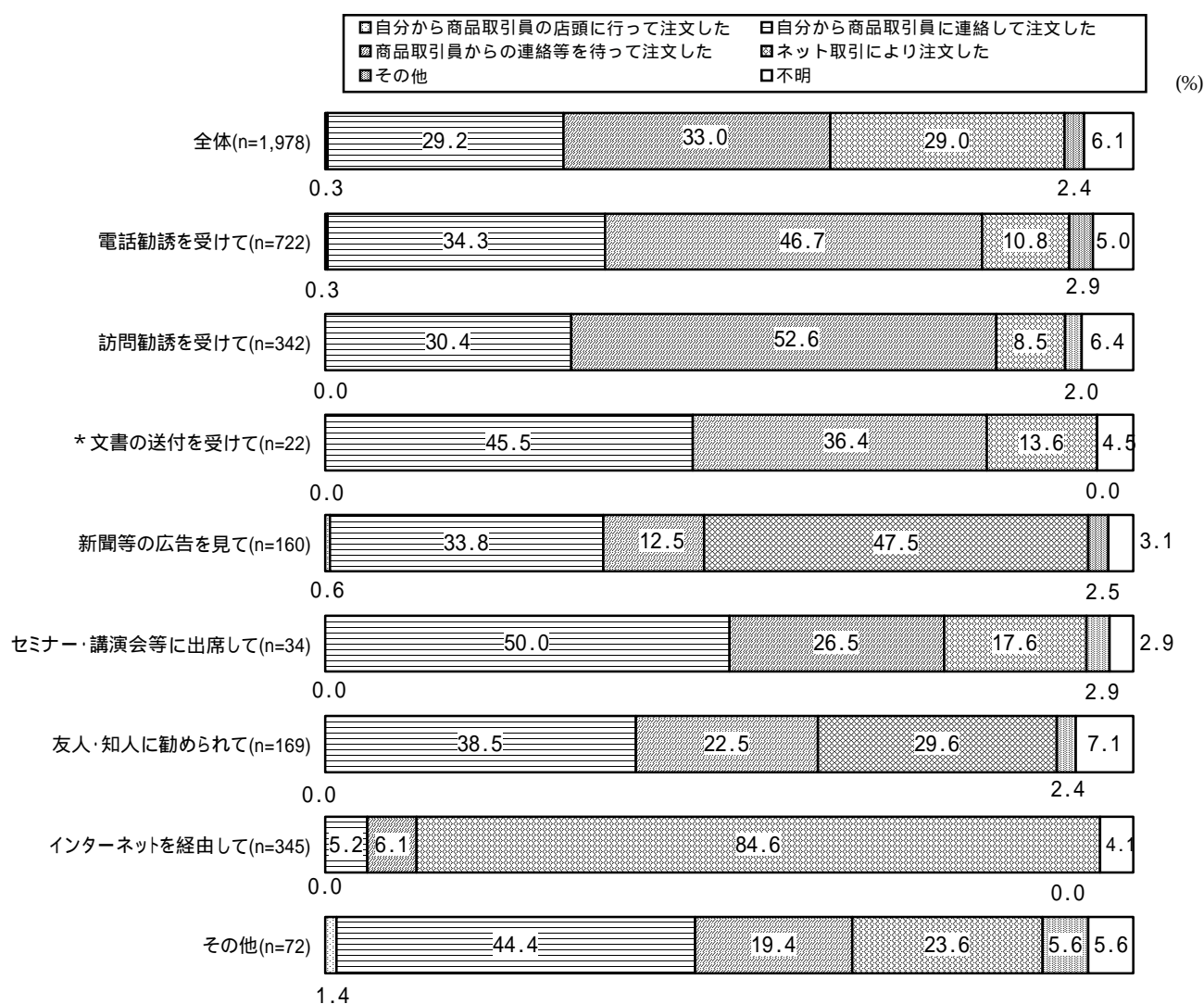
図表 31：これまでの注文方法（全体、性別、年齢別）



注)図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「電話勧誘を受けて」、「訪問勧誘を受けて」で、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」が5割前後となっている。これに対して、「新聞等の広告を見て」、「友人・知人に勧められて」では、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」は少なく、「自分から商品取引員に連絡して注文した」、「ネット取引により注文した」の割合が多くなっている。また、「インターネットを經由して」では「ネット取引により注文した」が84.6%と最も多くなっている。(図表32)

図表 32：これまでの注文方法（取引のきっかけ別）



注) 図表中 *印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

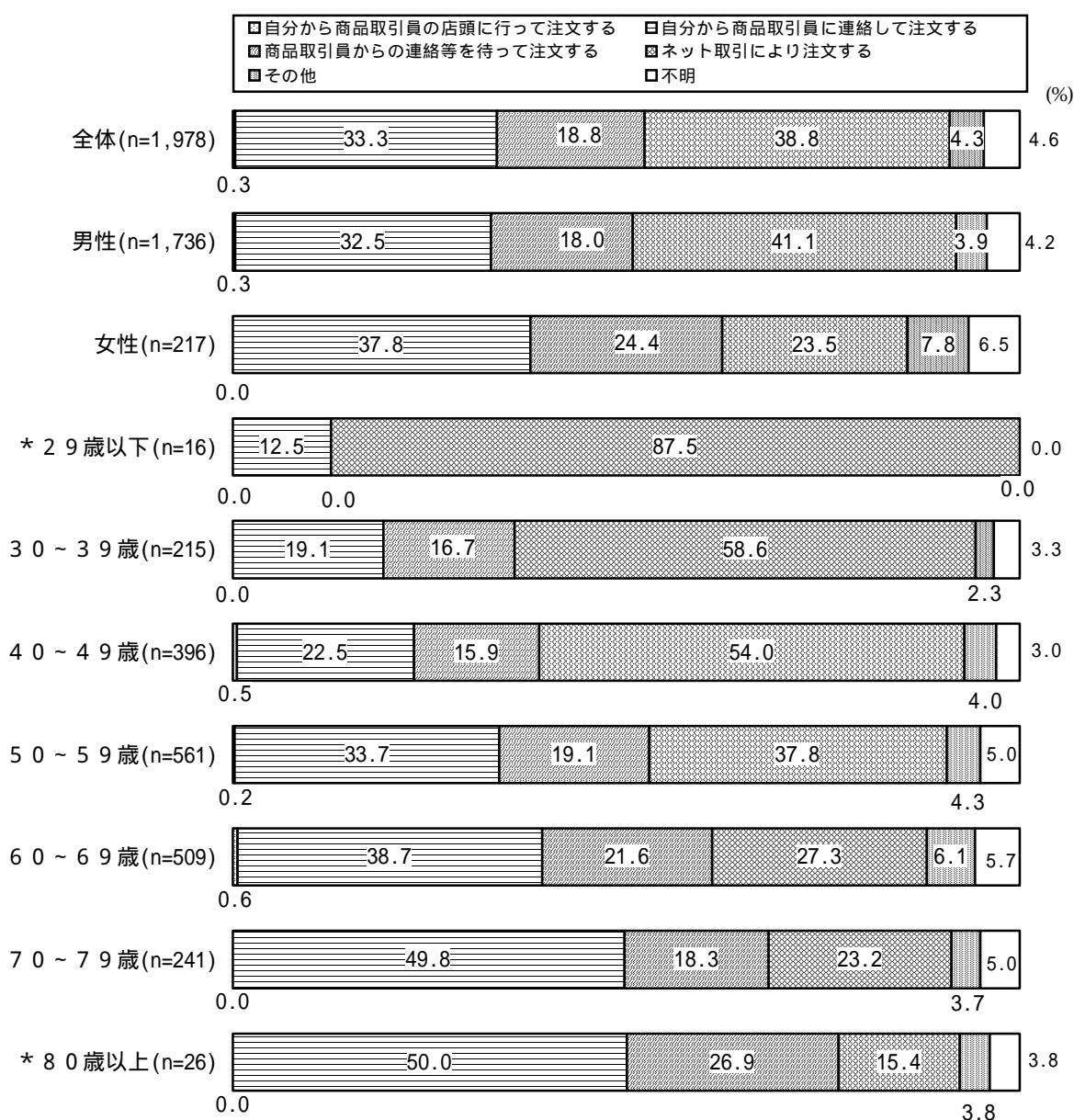
(2)これからの注文方法

これからの注文方法については、「ネット取引により注文する」(38.8%)、「自分から商品取引員に連絡して注文する」(33.3%)が多くなっており、これまでの注文方法で最も多かった「商品取引員からの連絡等を待って注文する」は18.8%と半分近くに下がっている。

性別でみると、「男性」で「ネット取引により注文する」が41.1%と多くなっている。

年齢別でみると、「40～49歳」以下で「ネット取引により注文する」が過半数を超えており、また、年齢層が上がるほど「自分から商品取引員に連絡して注文する」が多くなる傾向がみられる。(図表33)

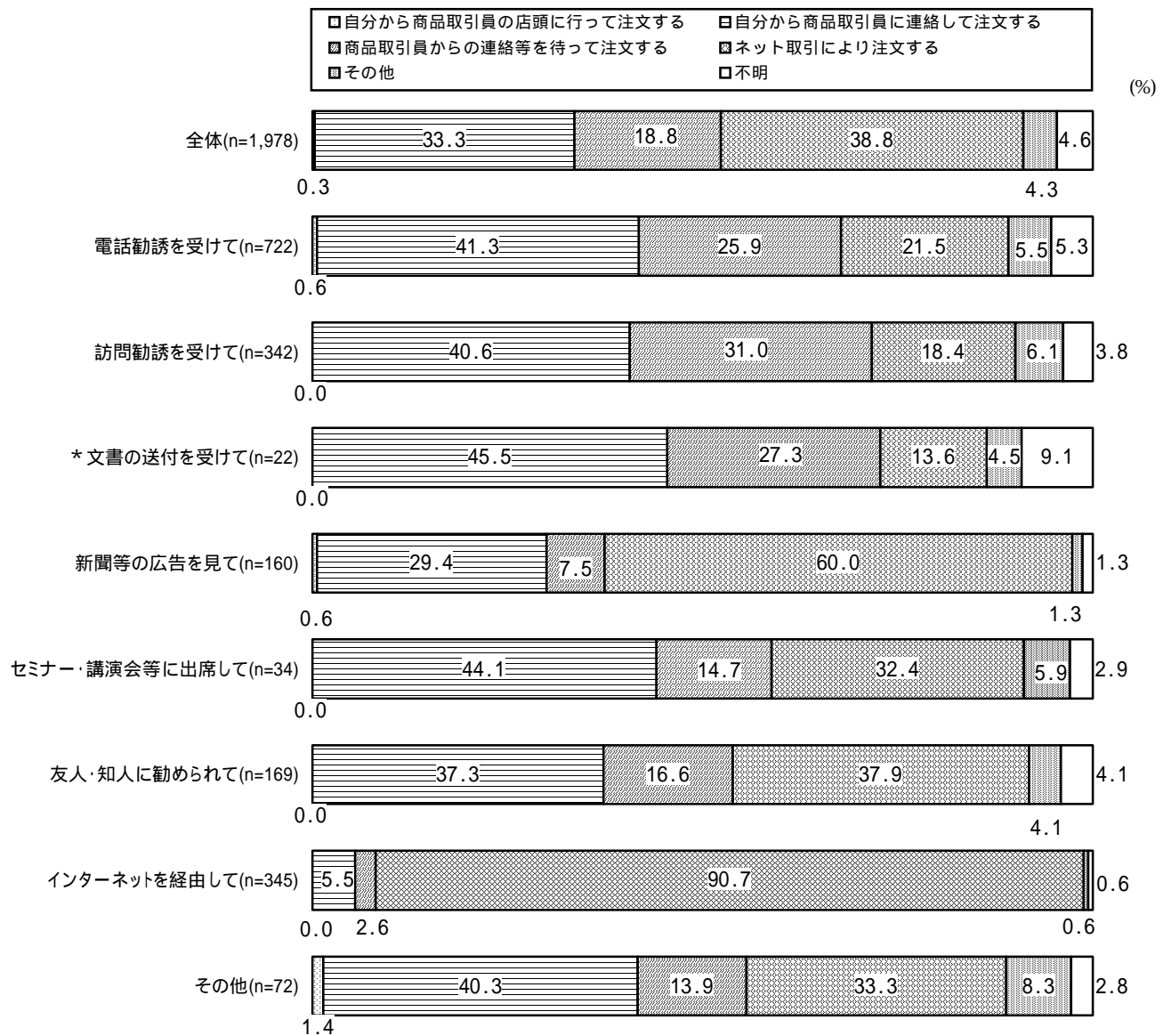
図表 33：これからの注文方法（全体、性別、年齢別）



注)図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「電話勧誘を受けて」、「訪問勧誘を受けて」、「セミナー・講演会等に参加して」で、「自分から商品取引員に連絡して注文する」が約4割となっているが、「商品取引員からの連絡等を待って注文する」も3割前後と多くなっている。これに対して、「新聞等の広告を見て」、「友人・知人に勧められて」では、「ネット取引により注文する」の割合が高くなっている。また、「インターネットを經由して」では「ネット取引により注文する」が90.7%と最も多くなっている。(図表34)

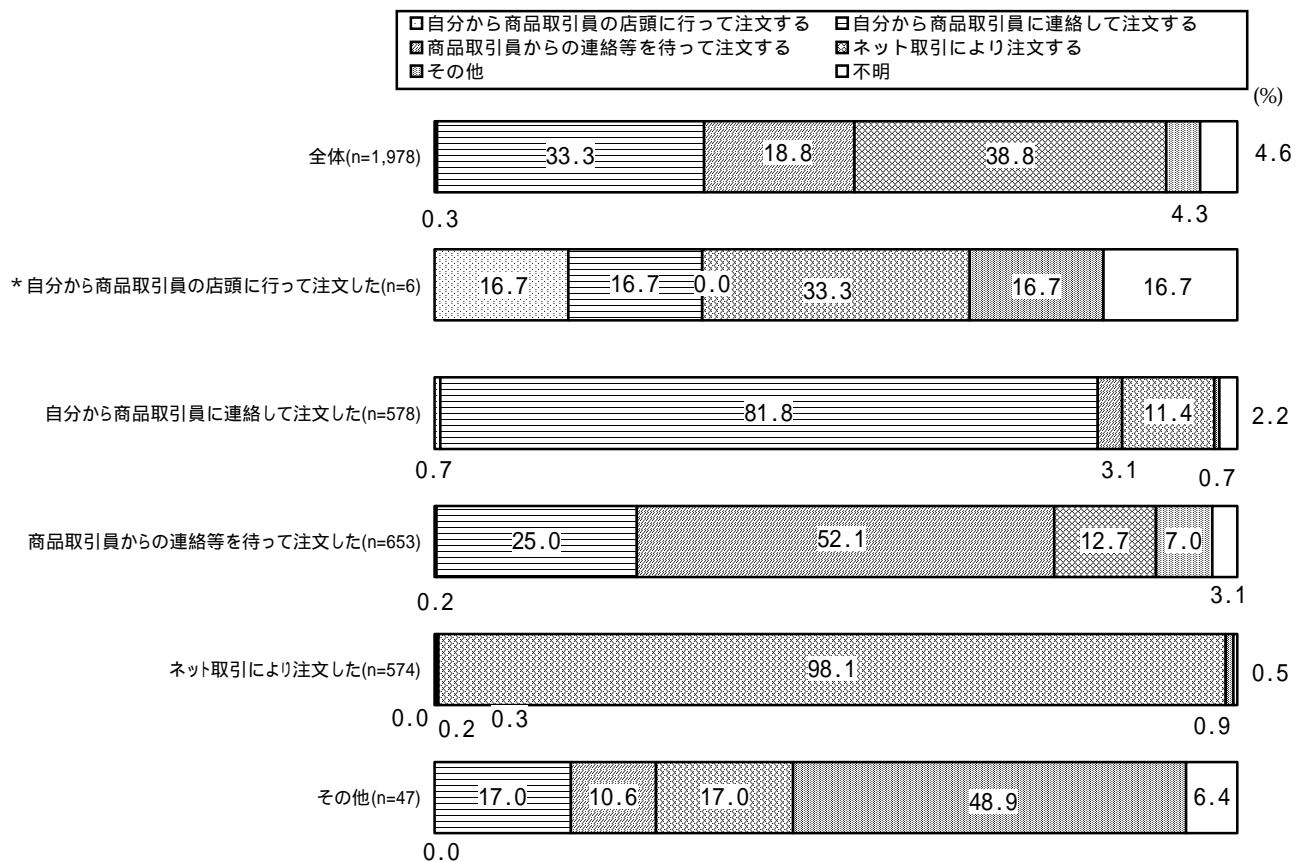
図表 34：これからの注文方法（取引のきっかけ別）



注) 図表中 * 印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

これまでの注文方法別でみると、「自分から商品取引員に連絡して注文した」で、これまでと同じ「自分から商品取引員に連絡して注文する」が81.8%と多くなっているが、「ネット取引により注文する」が11.4%となっており、また、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」で、「商品取引員からの連絡等を待って注文する」が52.1%と多くなっているが、「自分から商品取引員に連絡して注文する」が25.0%、「ネット取引により注文する」が12.7%となっており、一部の委託者はネット取引等にシフトしていくものと考えられる。「ネット取引により注文した」では「ネット取引により注文する」が98.1%で、現在の注文方法を継続する傾向が高い。(図表35)

図表 35：これからの注文方法（これまでの注文方法別）

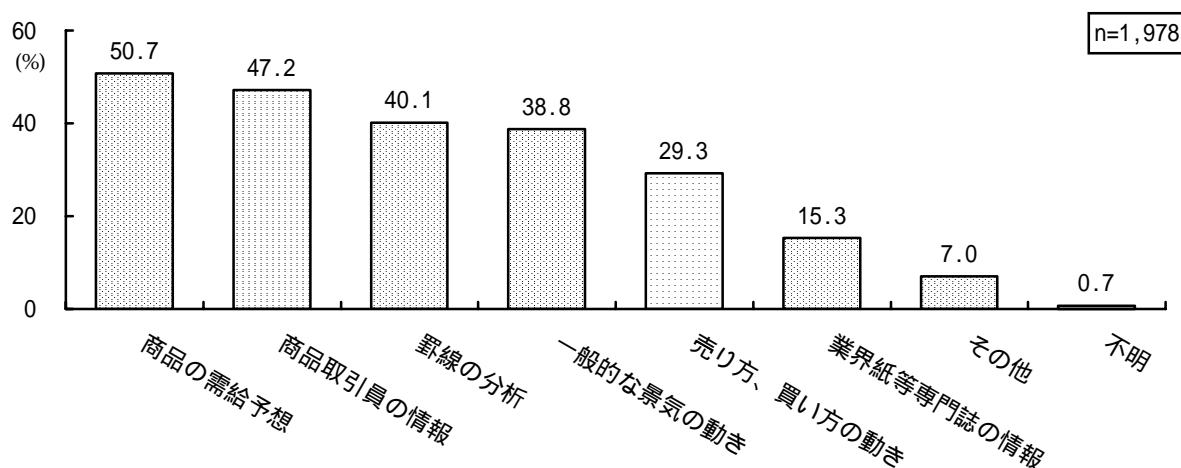


注) 図表中*印のついた「自分から商品取引員の店頭に行って注文した」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

-15.商品先物取引の判断材料

商品先物取引の判断材料については、「商品の需給予想」(50.7%)、「商品取引員の情報」(47.2%)が約5割と多くなっている。次いで、「罫線の分析」(40.1%)、「一般的な景気の動き」(38.8%)となっている。(図表36)

図表 36：商品先物取引の判断材料（全体）【複数回答】



性別でみると、「女性」で「商品取引員の情報」が61.8%と多くなっている。(図表37)

図表 37：商品先物取引の判断材料（性別、年齢別）【複数回答】

	(上段実数 / 下段%)							
	商品の需給予想	商品取引員の情報	罫線の分析	一般的な景気の動き	売り方、買い方の動き	業界紙等専門誌の情報	その他	不明
全体 (n=1,978)	1003 50.7	934 47.2	793 40.1	767 38.8	580 29.3	302 15.3	138 7.0	14 0.7
男性 (n=1,736)	890 51.3	787 45.3	723 41.6	661 38.1	512 29.5	261 15.0	125 7.2	9 0.5
女性 (n=217)	97 44.7	134 61.8	60 27.6	100 46.1	60 27.6	33 15.2	12 5.5	5 2.3
* 29歳以下 (n=16)	6 37.5	4 25.0	7 43.8	9 56.3	5 31.3	2 12.5	2 12.5	0 0.0
30歳代 (n=215)	106 49.3	82 38.1	90 41.9	81 37.7	73 34.0	15 7.0	17 7.9	0 0.0
40歳代 (n=396)	188 47.5	174 43.9	179 45.2	158 39.9	137 34.6	36 9.1	32 8.1	2 0.5
50歳代 (n=561)	279 49.7	273 48.7	215 38.3	220 39.2	160 28.5	74 13.2	35 6.2	5 0.9
60歳代 (n=509)	268 52.7	272 53.4	175 34.4	197 38.7	126 24.8	102 20.0	34 6.7	4 0.8
70歳代 (n=241)	133 55.2	107 44.4	112 46.5	85 35.3	64 26.6	56 23.2	15 6.2	3 1.2
* 80歳以上 (n=26)	13 50.0	14 53.8	9 34.6	13 50.0	9 34.6	10 38.5	2 7.7	0 0.0

注) 図表中 * 印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「電話勧誘を受けて」、「訪問勧誘を受けて」で、「商品取引員の情報」が約6割と最も多くなっている。「新聞等の広告を見て」、「インターネットを經由して」では、「罫線の分析」が最も多く、次いで「商品の需給予想」となっており、「商品取引員の情報」は少なくなっている。一方、「セミナー・講演会等に参加して」、「友人・知人に勧められて」では、「商品の需給予想」が最も多くなっている。

これまでの注文方法別でみると、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」で「商品取引員の情報」が74.7%、「ネット取引により注文した」で「罫線の分析」が61.1%と最も多くなっている。(図表38)

図表 38：商品先物取引の判断材料（取引のきっかけ、注文方法別）【複数回答】

(上段実数 / 下段%)

	商品の需給予想	商品取引員の情報	罫線の分析	一般的な景気の動き	売り方、買い方の動き	業界紙等専門誌の情報	その他	不明	
全体 (n=1,978)	1003 50.7	934 47.2	793 40.1	767 38.8	580 29.3	302 15.3	138 7.0	14 0.7	
取引のきっかけ	電話勧誘を受けて (n=722)	353 48.9	436 60.4	226 31.3	282 39.1	205 28.4	93 12.9	30 4.2	7 1.0
	訪問勧誘を受けて (n=342)	166 48.5	214 62.6	92 26.9	140 40.9	90 26.3	48 14.0	9 2.6	4 1.2
	*文書の送付を受けて (n=22)	13 59.1	16 72.7	10 45.5	11 50.0	7 31.8	6 27.3	1 4.5	0 0.0
	新聞等の広告を見て (n=160)	82 51.3	45 28.1	88 55.0	60 37.5	36 22.5	35 21.9	13 8.1	0 0.0
	セミナー・講演会等に参加して (n=34)	29 85.3	14 41.2	16 47.1	21 61.8	9 26.5	10 29.4	3 8.8	1 2.9
	友人・知人に勧められて (n=169)	80 47.3	74 43.8	69 40.8	67 39.6	43 25.4	34 20.1	11 6.5	1 0.6
	インターネットを經由して (n=345)	177 51.3	55 15.9	204 59.1	107 31.0	119 34.5	34 9.9	40 11.6	1 0.3
	その他(n=72)	39 54.2	30 41.7	28 38.9	31 43.1	24 33.3	16 22.2	19 26.4	0 0.0
これまでの注文方法	*自分から商品取引員の店頭に行き注文した(n=6)	4 66.7	1 16.7	3 50.0	4 66.7	2 33.3	2 33.3	1 16.7	0 0.0
	自分から商品取引員に連絡して注文した(n=578)	349 60.4	304 52.6	232 40.1	266 46.0	184 31.8	120 20.8	33 5.7	3 0.5
	商品取引員からの連絡等を待って注文した(n=653)	294 45.0	488 74.7	141 21.6	228 34.9	160 24.5	76 11.6	23 3.5	4 0.6
	ネット取引により注文した(n=574)	279 48.6	63 11.0	351 61.1	203 35.4	173 30.1	76 13.2	63 11.0	2 0.3
	その他(n=47)	20 42.6	25 53.2	7 14.9	18 38.3	9 19.1	6 12.8	7 14.9	3 6.4

注) 図表中 * 印のついた項目はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

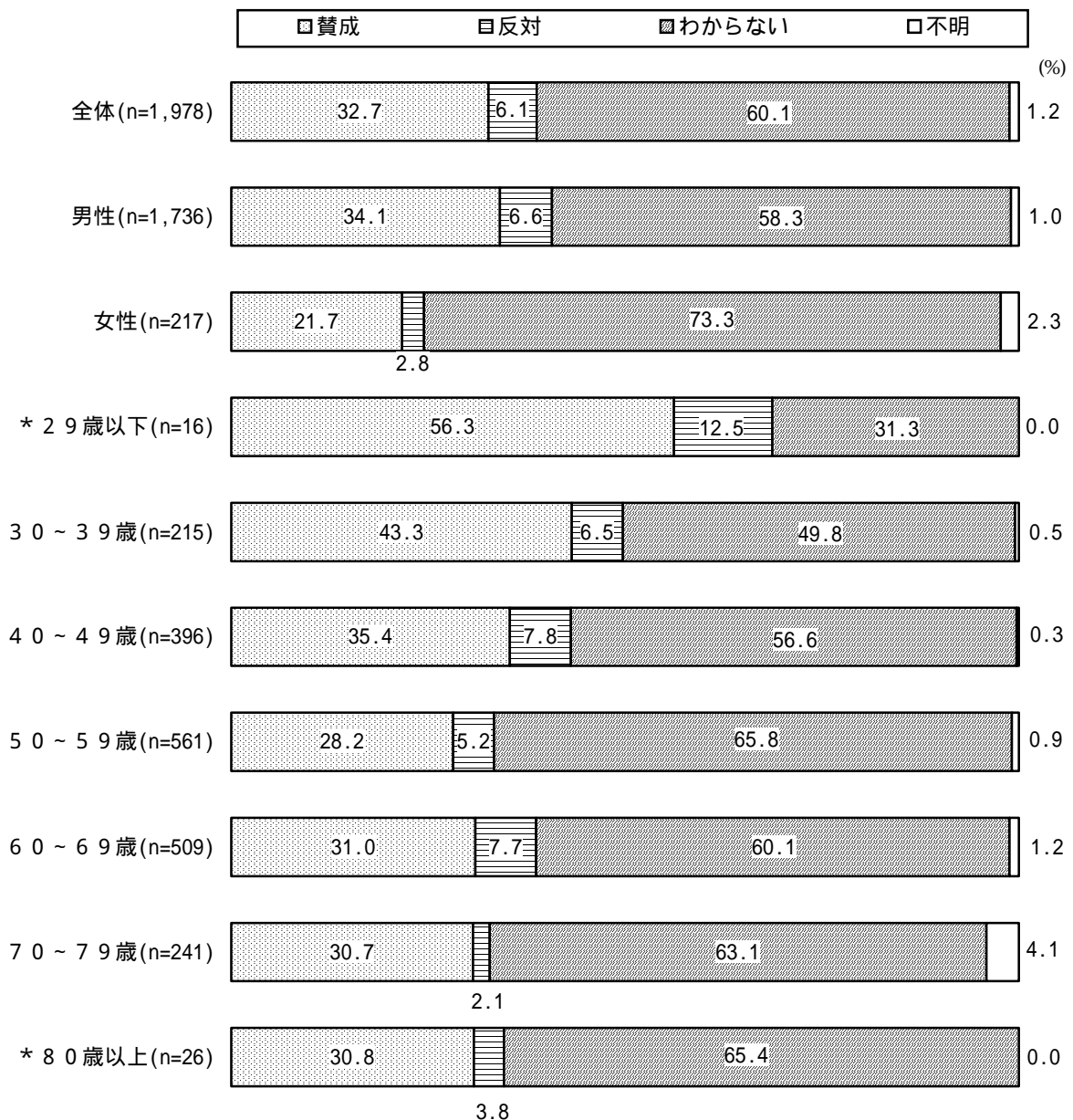
-16.小規模取引商品について

小規模取引商品については、「賛成」が 32.7%、「反対」が 6.1%となっているが、「わからない」が 60.1%と最も多くなっている。

性別でみると、「女性」で「賛成」が 21.7%と少なく、「わからない」が 73.3%と多くなっている。

年齢別でみると、「40～49歳」以下で「賛成」が4割前後とやや多くなっている。(図表 39)

図表 39：小規模取引商品について（全体、性別、年齢別）



注) 図表中 * 印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

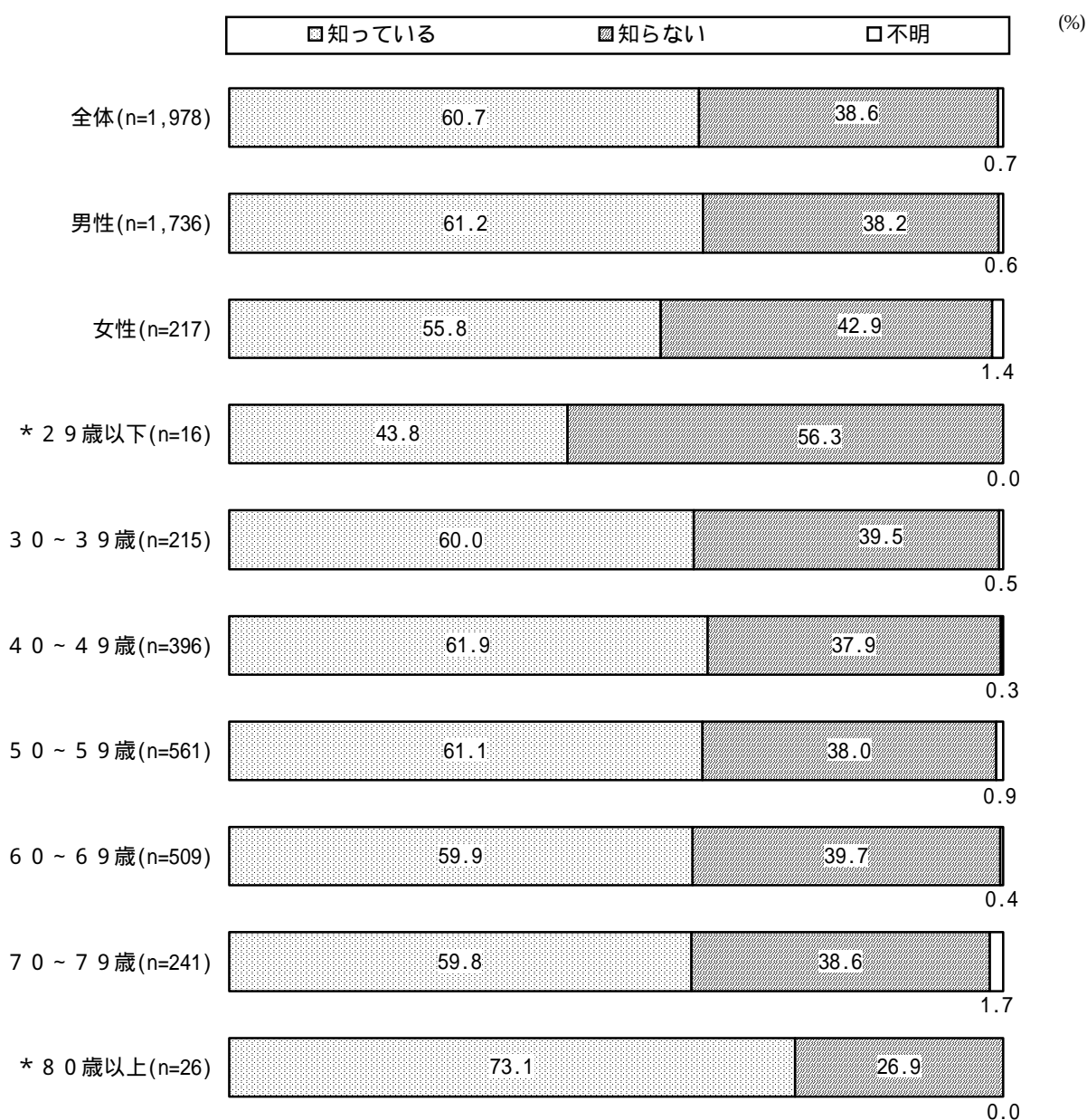
-17.日本商品先物取引協会について

(1)日本商品先物取引協会の認知度

日本商品先物取引協会の認知度については、「知っている」が60.7%、「知らない」が38.6%となっており、約6割が認知している。

性別、年齢別でも、サンプル数の少ない「29歳以下」、「80歳以上」を除いて、大きな違いはみられない。(図表40)

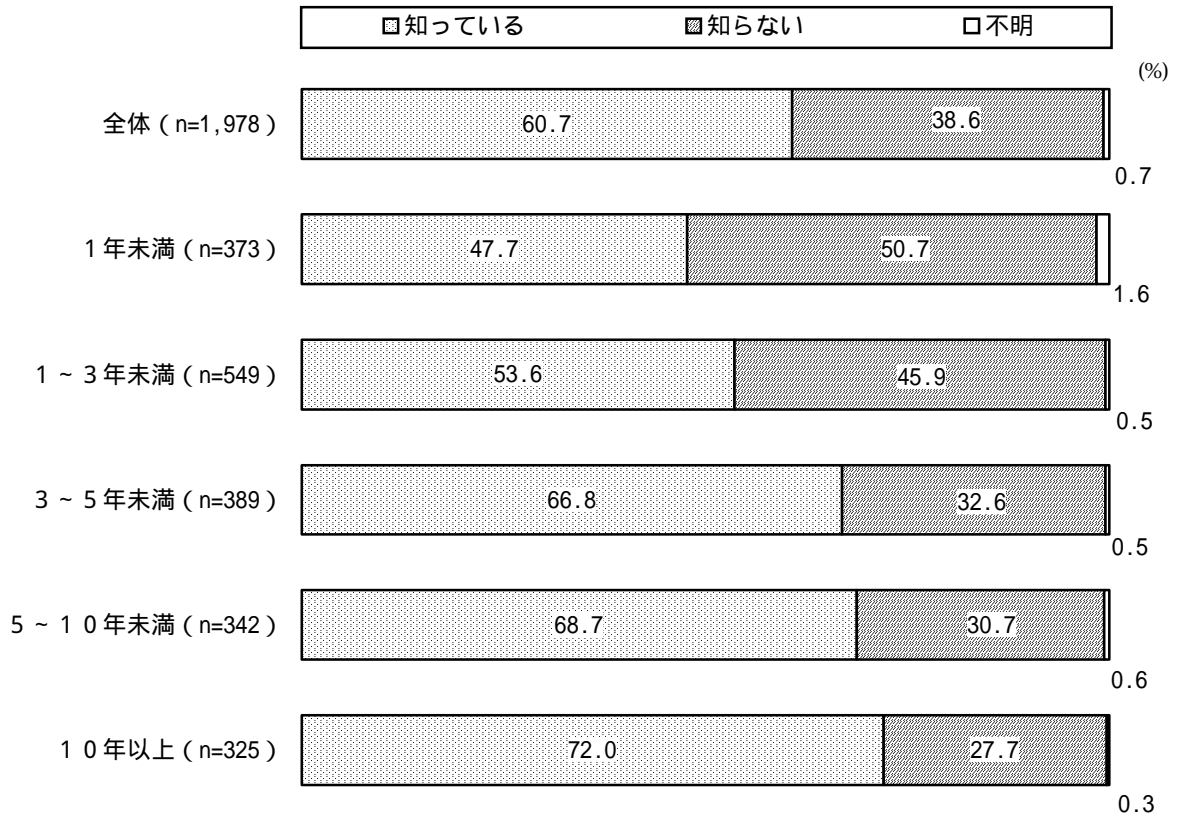
図表 40：日本商品先物取引協会について（全体、性別、年齢別）



注)図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引の経験年数(累積)別でみると、「1年未満」で「知っている」が47.7%となっているが、「10年以上」では「知っている」が72.0%となっており、経験年数が長くなるほど認知度は高くなる傾向がみられる。(図表41)

図表 41：日本商品先物取引協会について（取引の経験年数（累積）別）

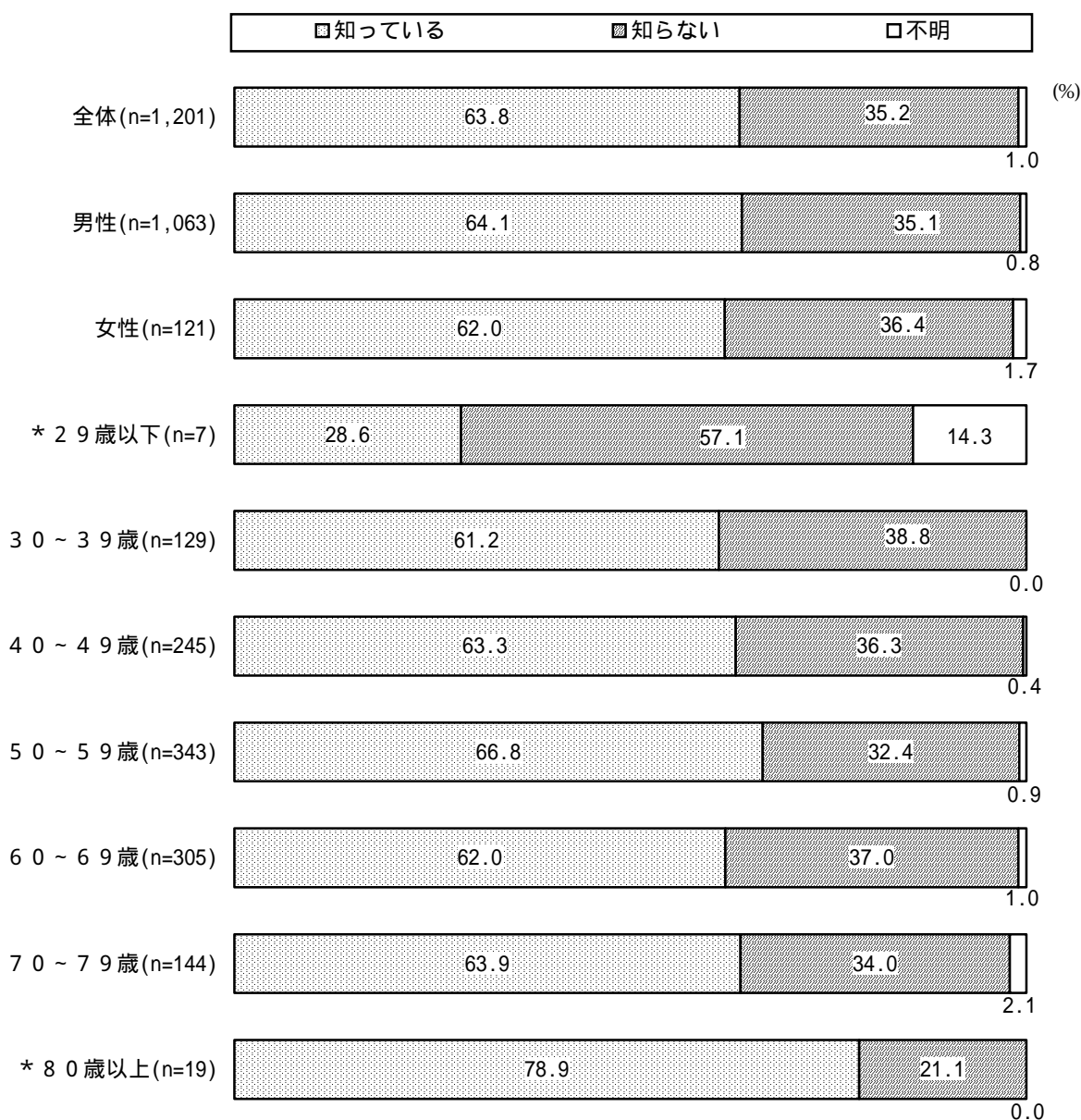


(2)相談・苦情の仲介業務について

日本商品先物取引協会が相談・苦情の仲介業務を行っていることについては、「知っている」が63.8%、「知らない」が35.2%となっている。

性別、年齢別でも、サンプル数の少ない「29歳以下」と「80歳以上」を除いて、大きな違いはみられない。(図表42)

図表 42：日本商品先物取引協会の相談・苦情の仲介業務について（全体、性別、年齢別）

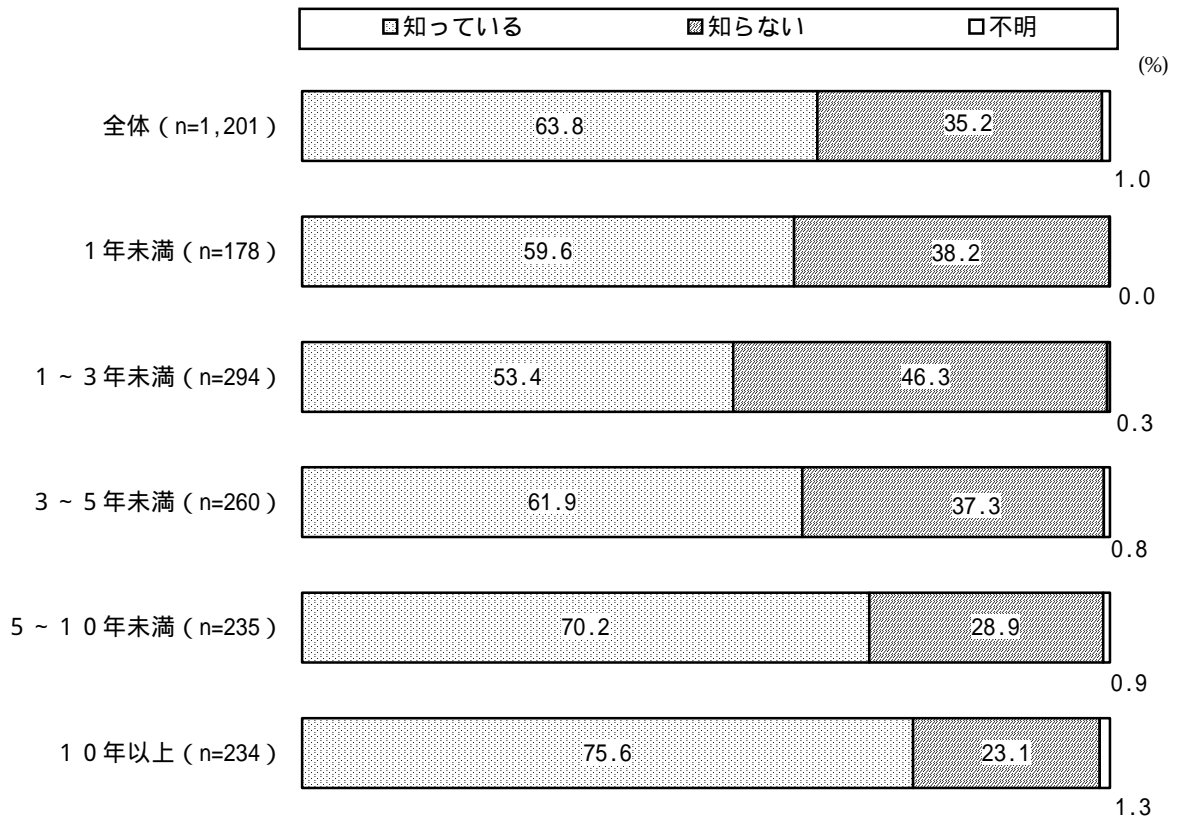


注) 図表中 * 印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

注) 日本商品先物取引協会を「知っている」と回答した委託者 1,201人が回答。

取引の経験期間（累積）別でみると、「1～3年未満」で「知っている」が53.4%となっているが、「10年以上」では「知っている」が75.6%となっており、経験期間が長くなるほど認知度は高くなる傾向がみられる。（図表43）

図表 43：日本商品先物取引協会の相談・苦情の仲介業務について（取引経験期間（累積）別）



.商品取引員調査の結果

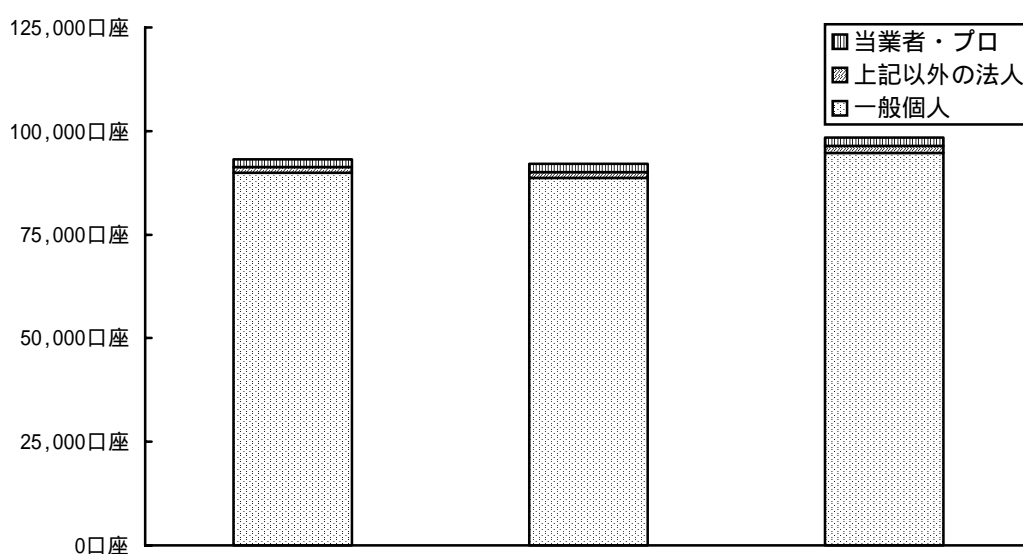
-1.取引口座数

平成 18 年から平成 20 年における商品取引員の年初及び新規の口座数について、「プロ・当業者」、「プロ・当業者以外の法人」、「一般個人」の別に質問している。なお、本調査の時期が年初であったため、平成 20 年の新規口座数は調査対象外としている。

取引口座数は、平成 18 年初は 93,243 口座、平成 19 年初は 92,034 口座、平成 20 年初は 98,408 口座となっている。

新規口座数は、平成 18 年には 49,086 口座あり、平成 19 年は 46,174 口座となっている。(図表 44)

図表 44：取引口座数



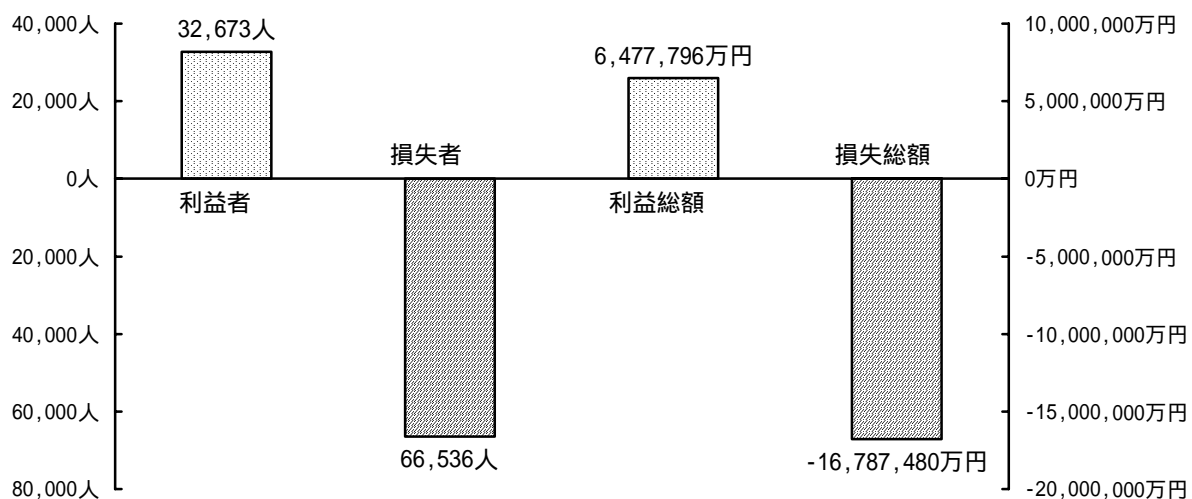
		平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年
プロ・当業者	年初の口座数	1,911 口座	1,966 口座	1,917 口座
	新規の口座数	421 口座	334 口座	
上記以外の法人	年初の口座数	1,357 口座	1,410 口座	1,810 口座
	新規の口座数	514 口座	748 口座	
一般個人	年初の口座数	89,975 口座	88,658 口座	94,681 口座
	新規の口座数	48,151 口座	45,092 口座	
合計	年初の口座数	93,243 口座	92,034 口座	98,408 口座
	新規の口座数	49,086 口座	46,174 口座	

注) 「プロ」:「商品取引所法施行規則第 107 条第 1 項第 1 号~6 号として規定される者」
「当業者」:「商品取引所法施行規則第 107 条第 1 項第 7 号として規定される者」

-2.一般個人の損益状況

平成 19 年の一般個人の損益状況については、利益者が 32,673 人、損失者が 66,536 人となっており、利益者約 3 割に対し損失者は約 7 割という結果になっている。また、一人当たり平均利益額は 198 万円、一人当たり平均損失額は 253 万円となっている。(図表 45)

図表 45：一般個人の損益状況



	平成 19 年
利益者数	32,673 人 (33%)
利益合計額	648 億円
一人当たり利益額	198 万円
損失者数	66,536 人 (67%)
損失合計額	1,679 億円
一人当たり損失額	253 万円
委託者数合計	99,209 人 (100%)

注) 損益の計算方法は「売買差損益金 - (手数料 + 手数料に係る消費税)」

-3.登録外務員数

登録外務員数は、平成18年初は10,773名、平成19年初は9,545名、平成20年初は7,500名となっている。(図表46)

図表 46 : 登録外務員数

